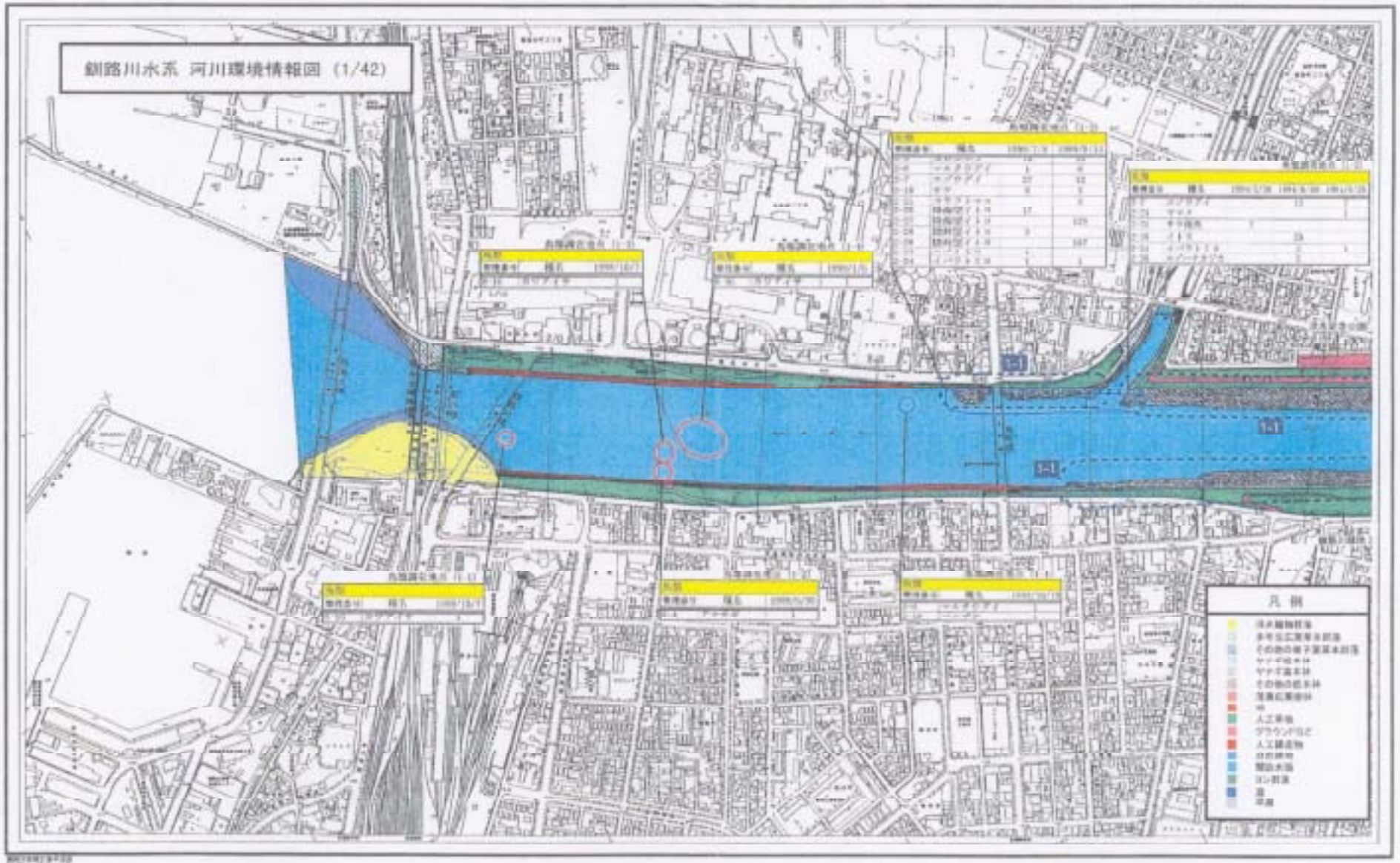
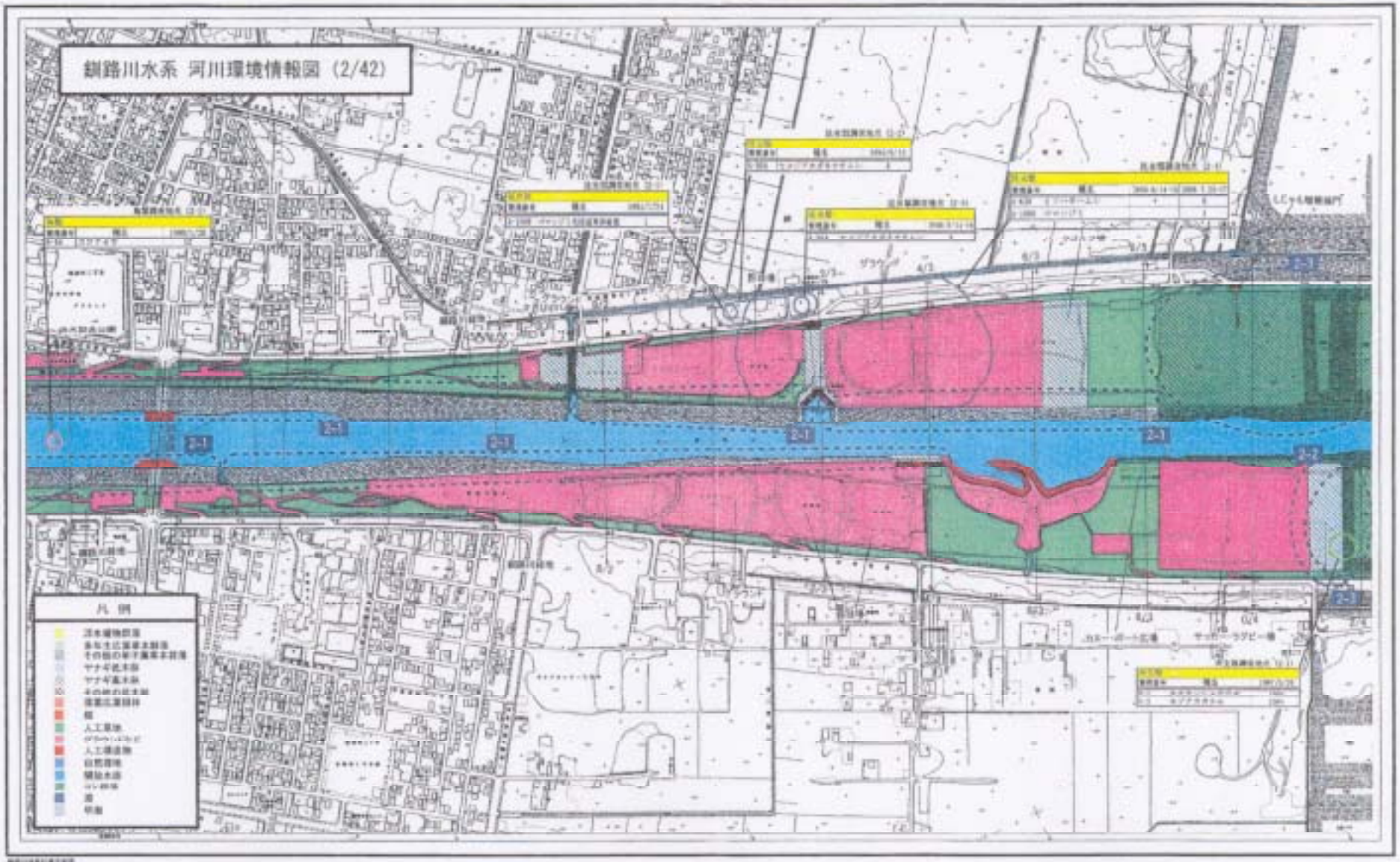
河　川　情　報　図

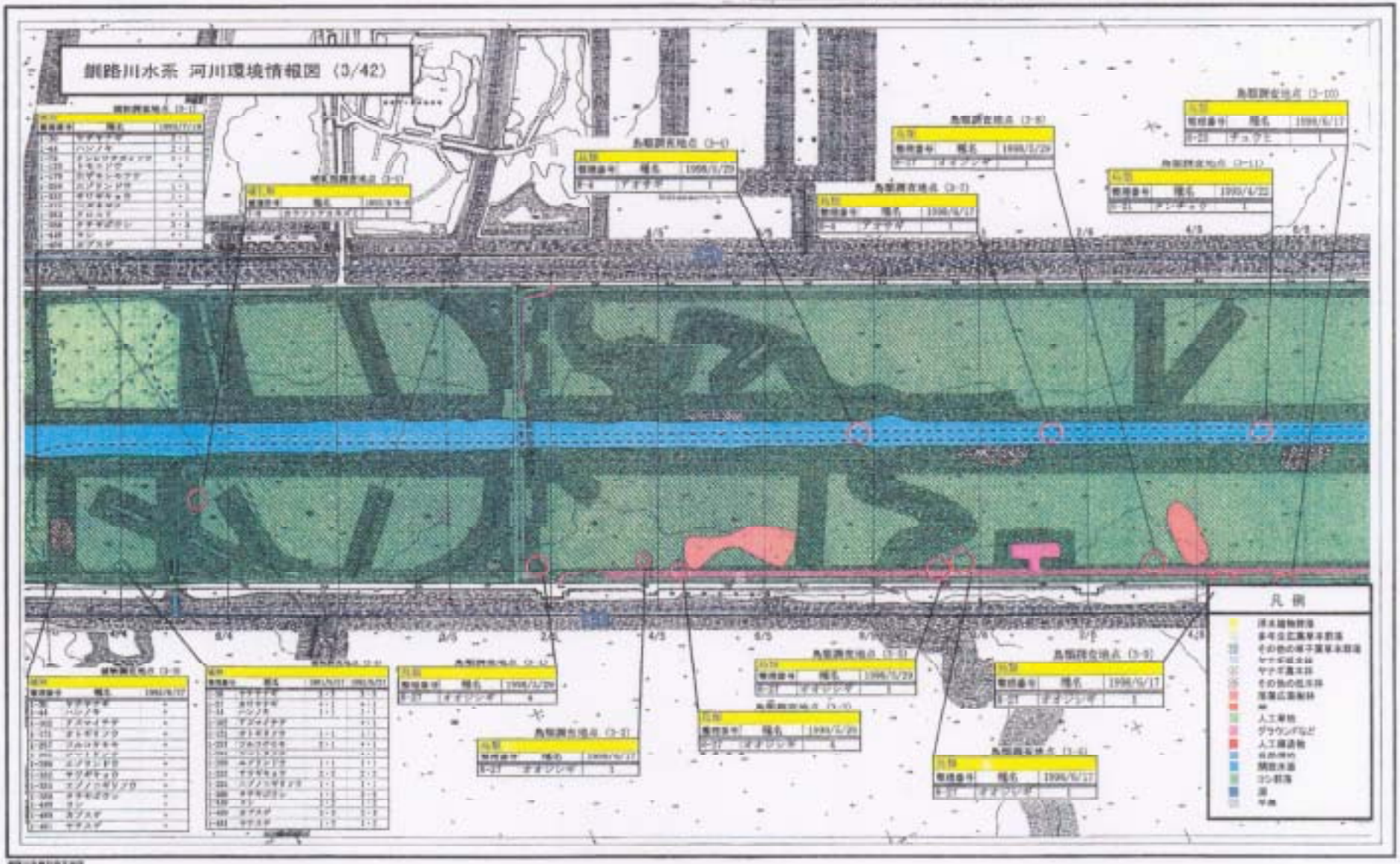
番号	調査地点	調査対象	調査内容
1-1	西蓮寺小橋前	カワヤナギ	・[illegible] ・[illegible] ・[illegible]（1～6月、9～11月）において、[illegible]を実施する。



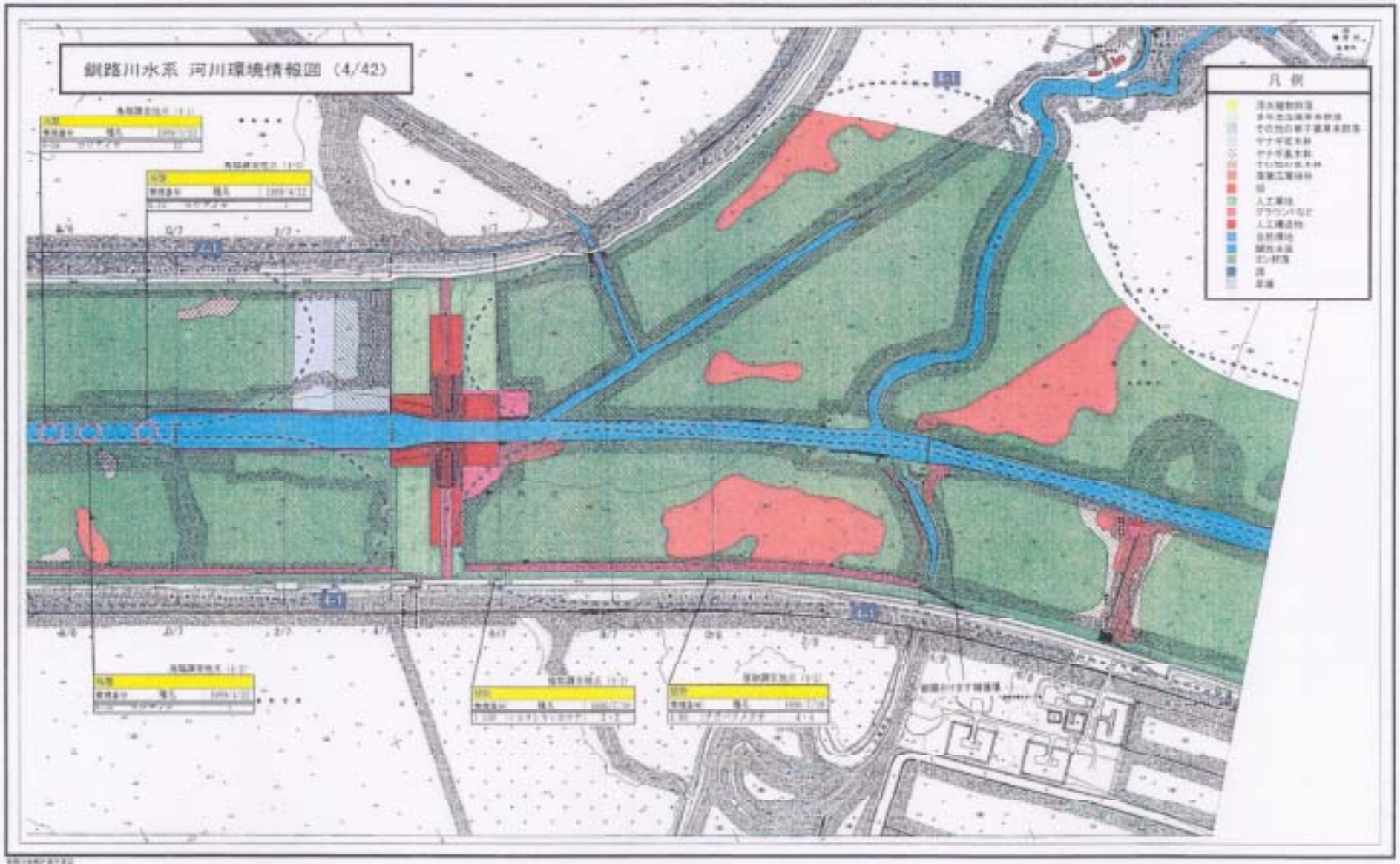
番号	対象区間	対象動植物	保全すべき事項
2－1	河道近いの湿地	カワヤナギ	・カワヤナギの生育が確保している。 ・出水攪乱、陸化進行を抑制するために河原の水生植物を保護する。 ・遅い刈り（5月、9～10月）において、適切植栽が確保する。
2－2	キタサンショウウオ	キタサンショウウオ	・キタサンショウウオの産卵場が存在している。 ・産卵期（4月下旬～5月）および幼生期（7～8月）が重要である。 ・ヨシ、水草の保全を保護し、産卵しやすい環境を整える。
2－3	河道周辺の湿地	オオジシギ、ヨシゴイ	・河道周辺の湿地に、オオジシギ、ヨシゴイが確認されている。 ・繁殖期（3月～8月）に伐採工事の実施は回避措置が必要である。



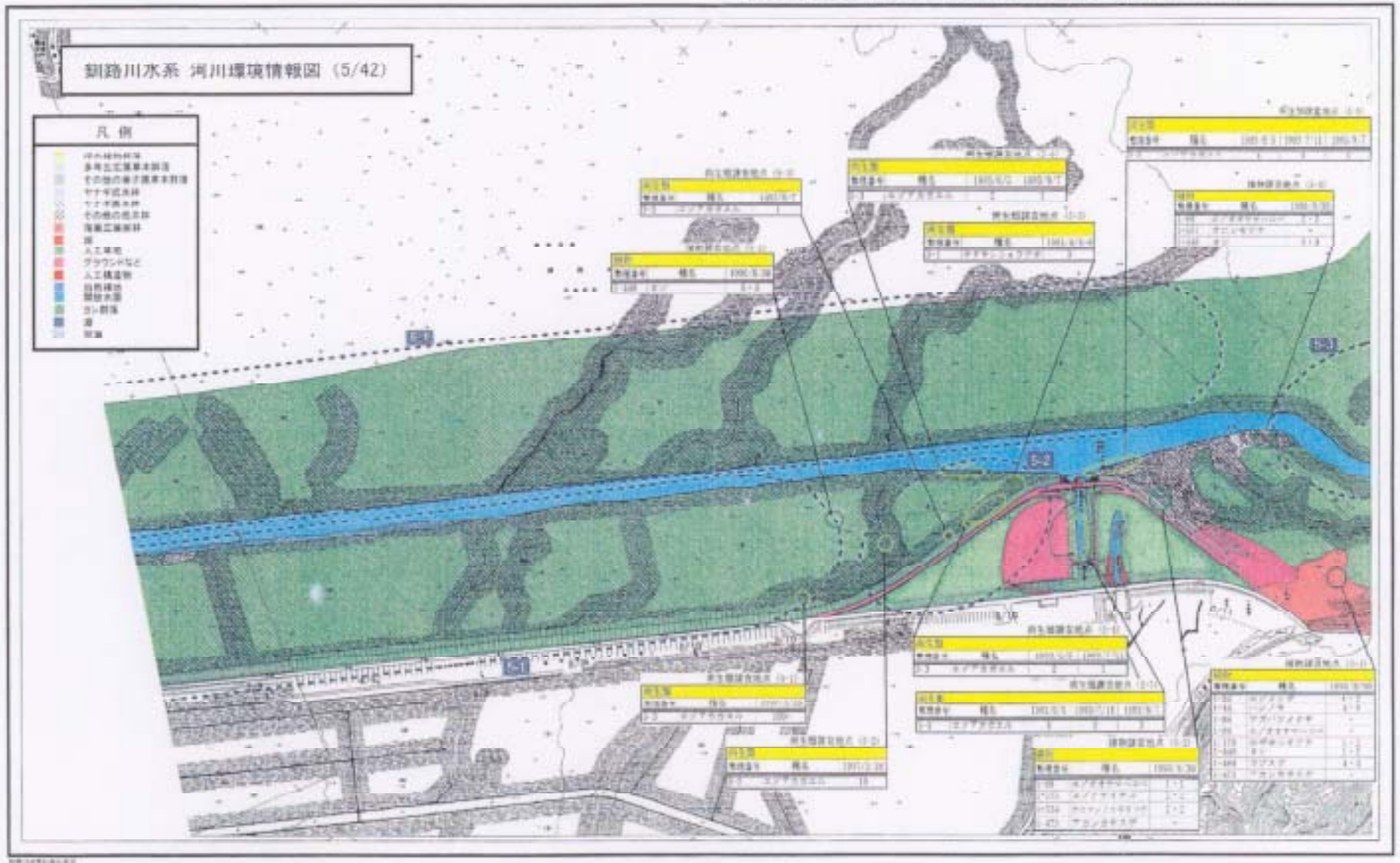
3-1	河道周辺の植物	植生図 ダンチョウ	植生図は、1996年7月に行った調査の結果を反映させて作成した。

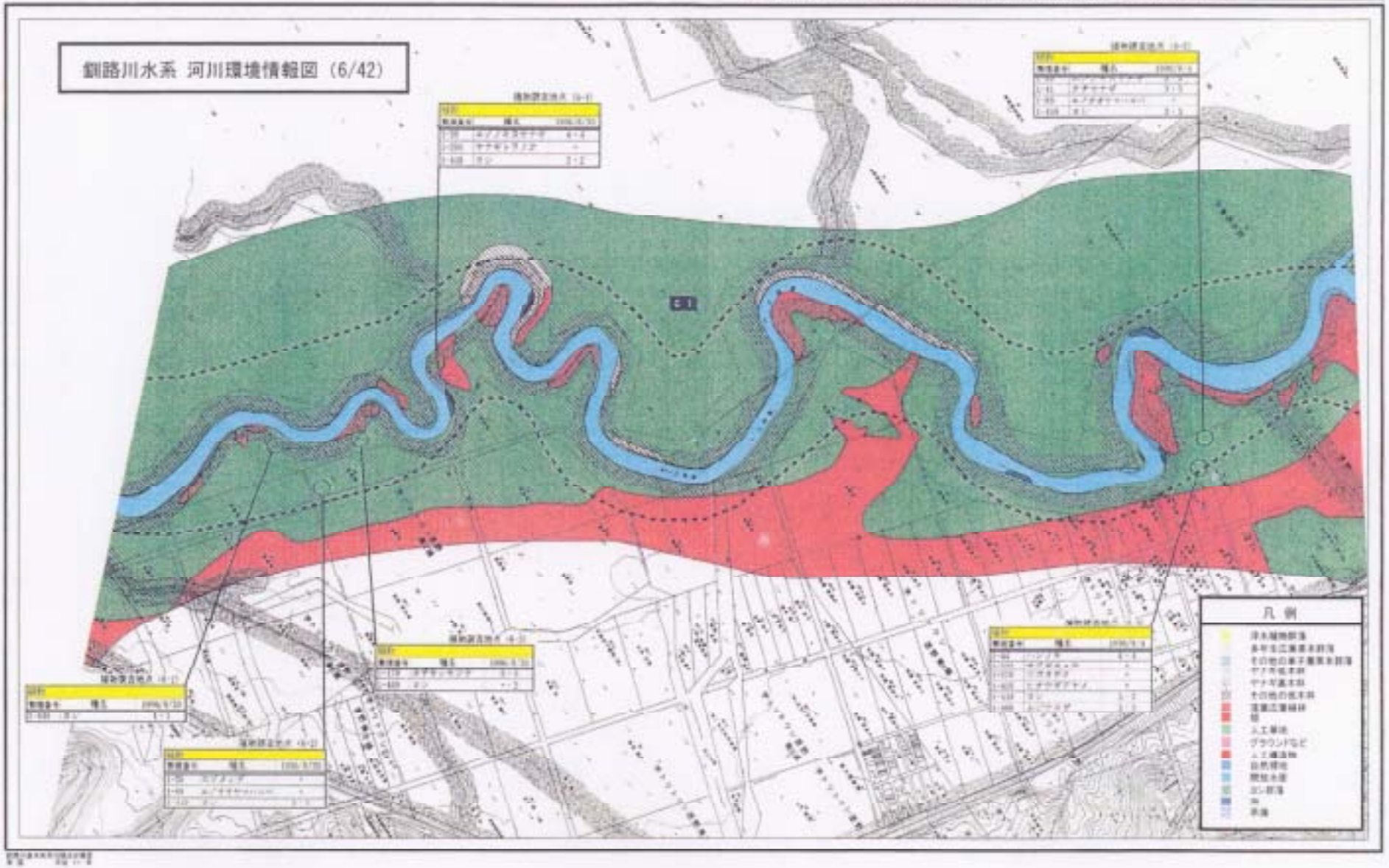


番号	対象区域	確認対象	確認方法
4-1	河畔林の分布地	タンチョウ	・繁殖期（1月～3月）に巣の探索・観察を行う。

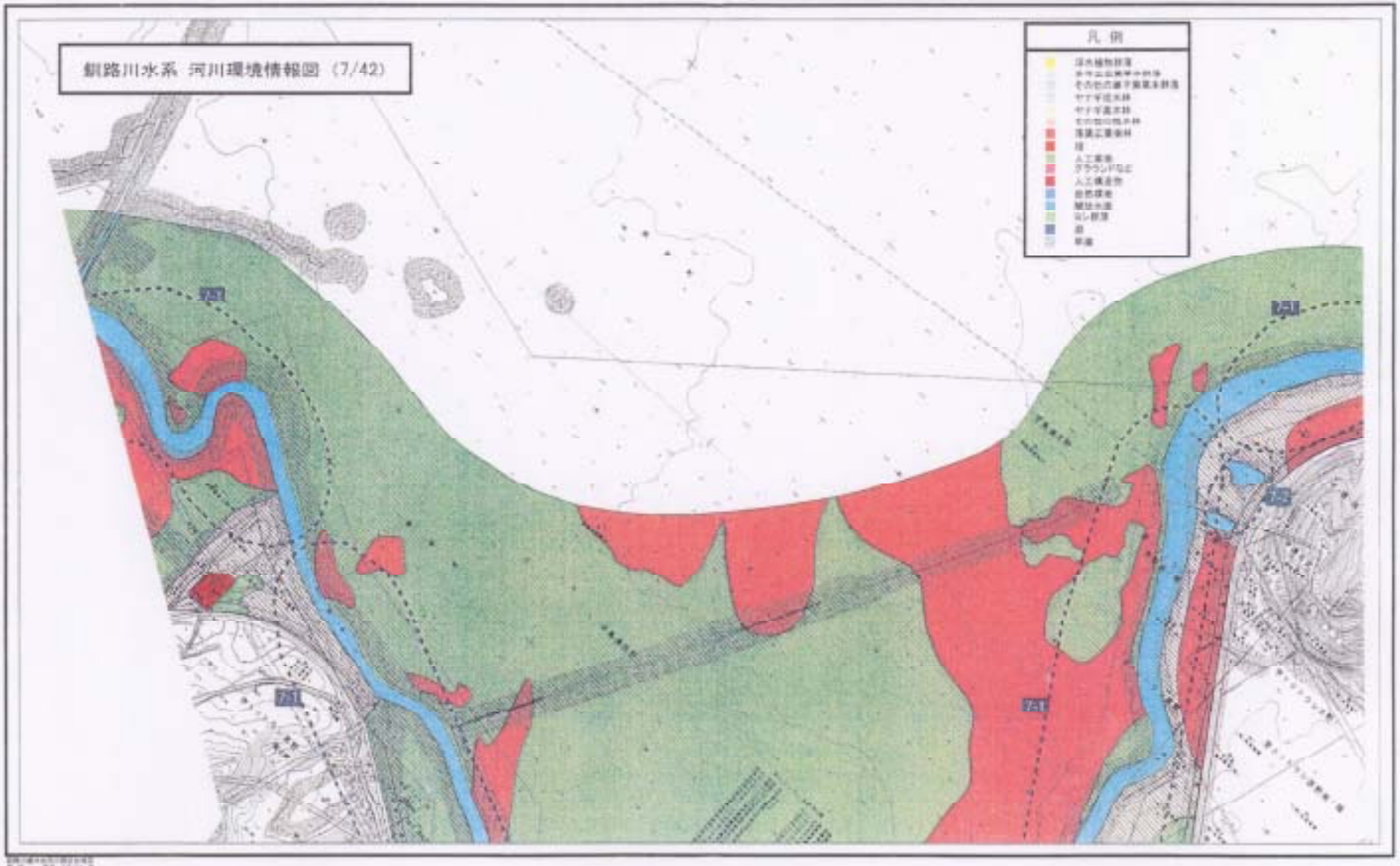


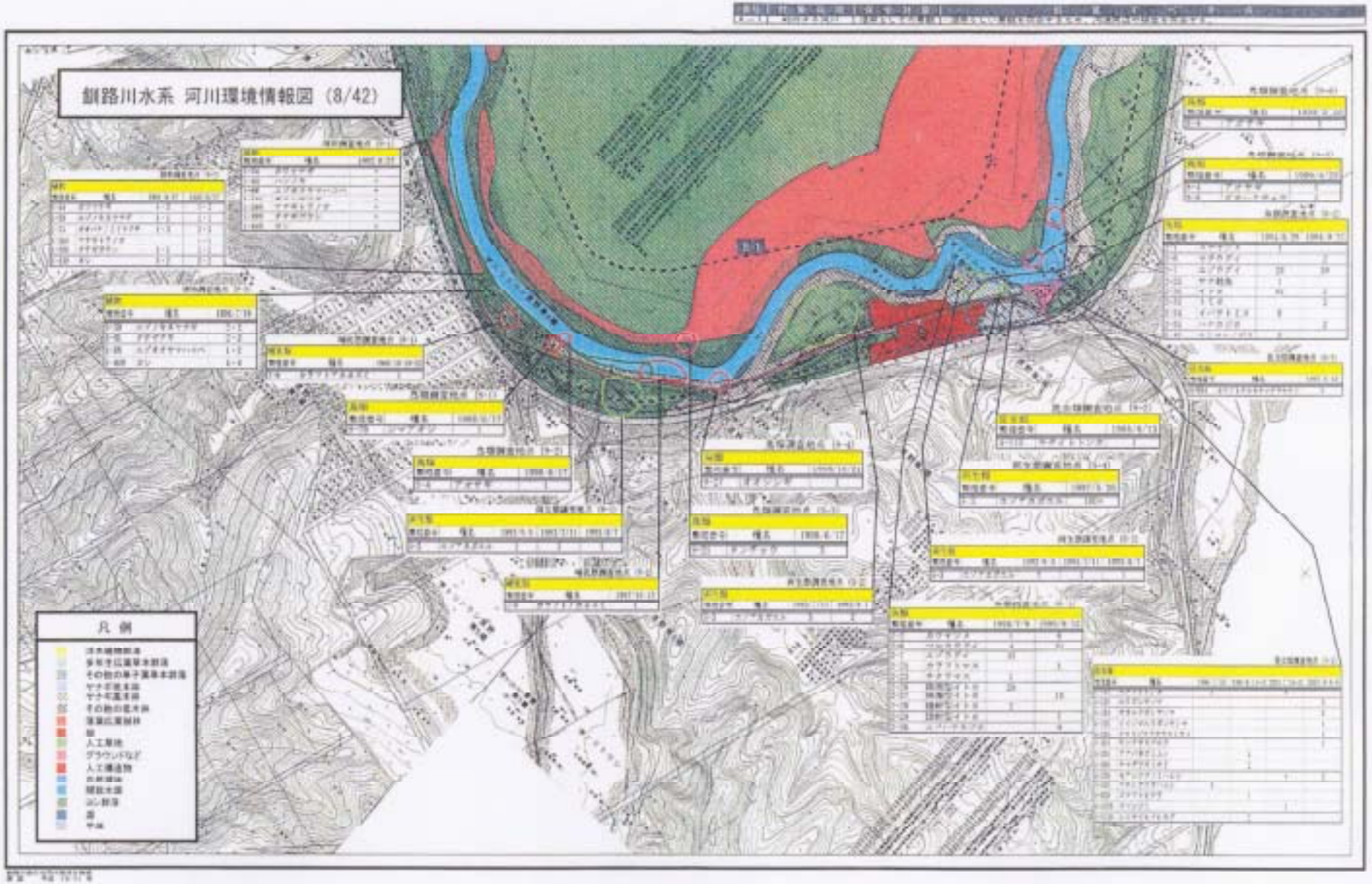
番号	対象河川	対象対象	内容
S-1	河道周辺の湿地	オオシラヤ カンチュウ	・河道周辺の湿地はヨシやカンチュウが繁茂している。 ・繁殖期（3月～8月）に工事の改出時期等が必要である。
S-2	ホタルシンジュガイ 成 幼	ムラサキツユクサ	・ホタルシンジュガイの繁殖活動が見られている。 ・繁殖は4月下旬～5月上旬の時期に行われる。 ・また、幼個体の稚魚を利用し、産卵しやすい環境を整える。
S-3	絶滅するおそれ	湿潤な土地の植物	・湿潤な土地の植物を保全するため、水路周辺の環境を保全する。



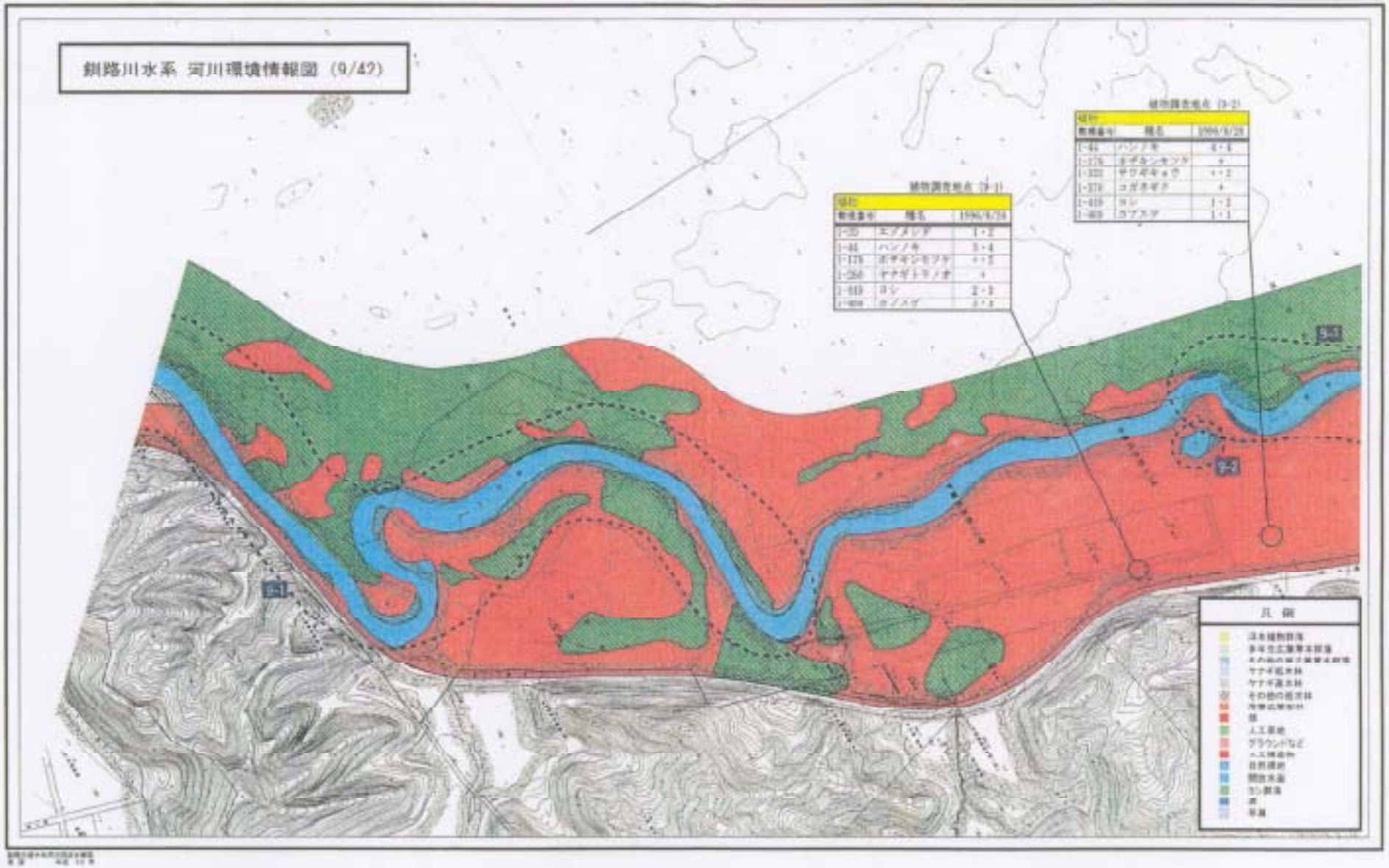

釧路川水系 河川環境情報図 (6/42)
凡例

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

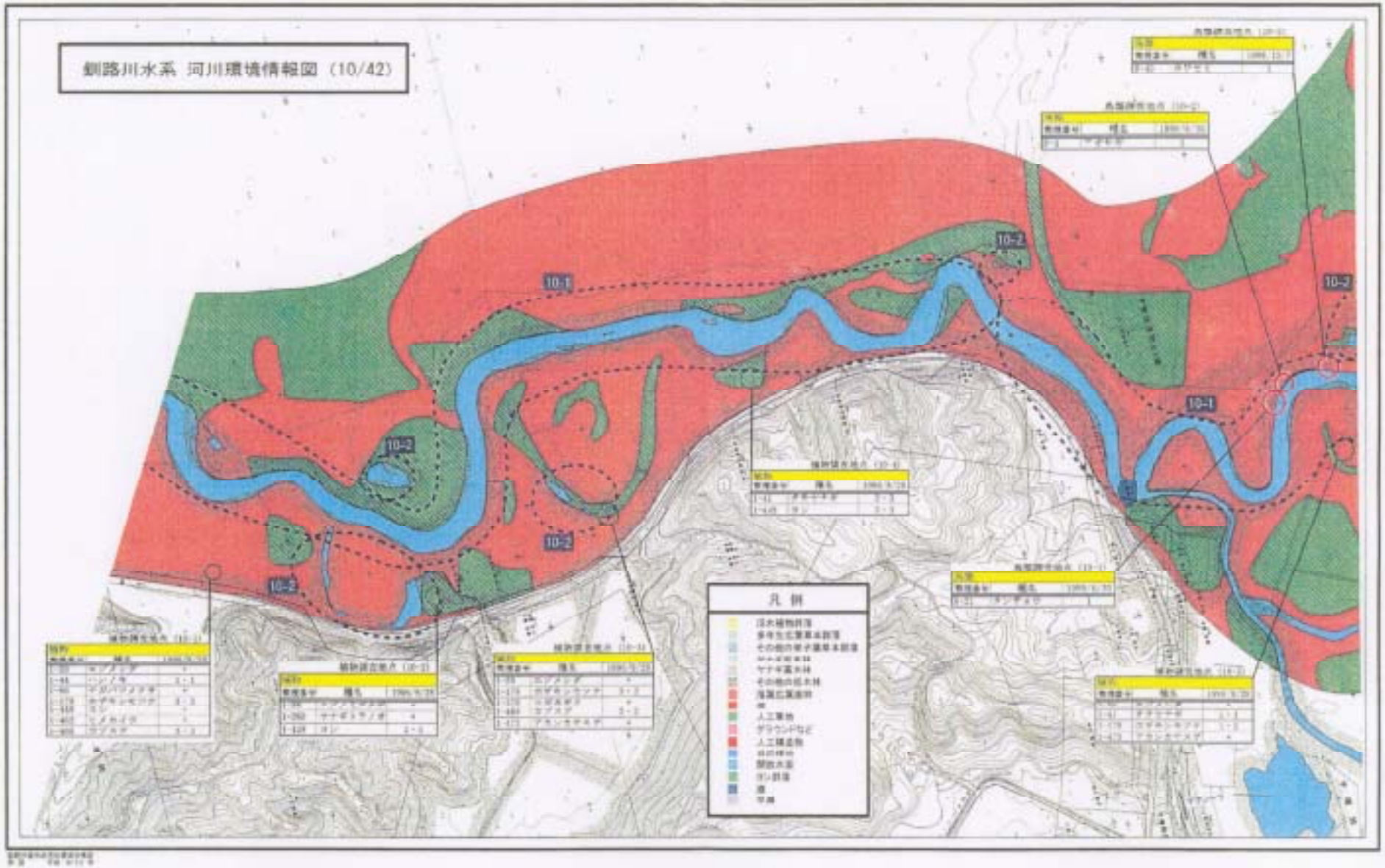

釧路川水系 河川環境情報図（7/42）
凡例
7-52
7-51
7-51
7-52
7-53


釧路川水系 河川環境情報図 (8/42)
凡 例

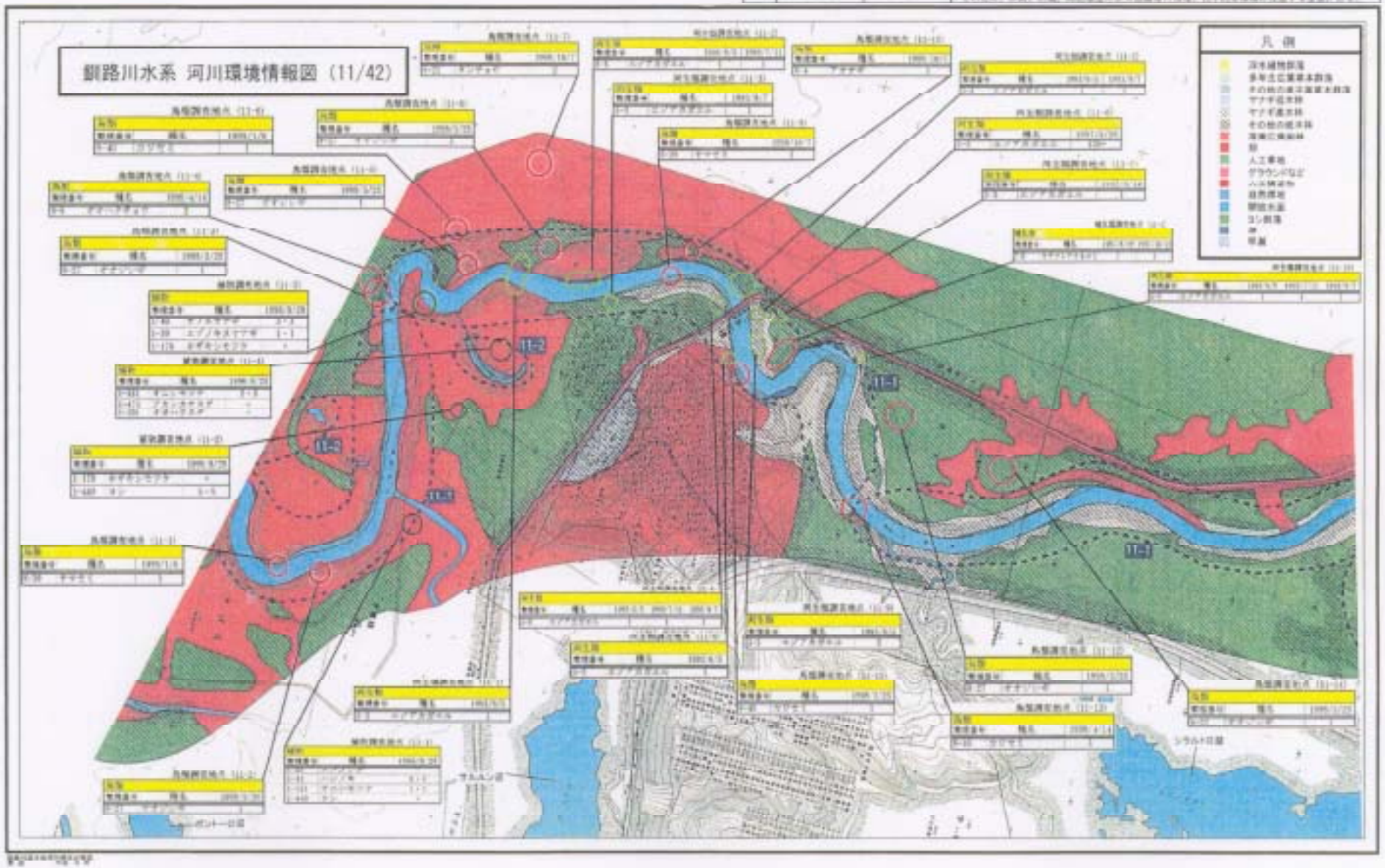
[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]


釧路川水系 河川環境情報図 (9/42)
植物調査地点 (9-1)
植物調査地点 (9-2)
凡 例

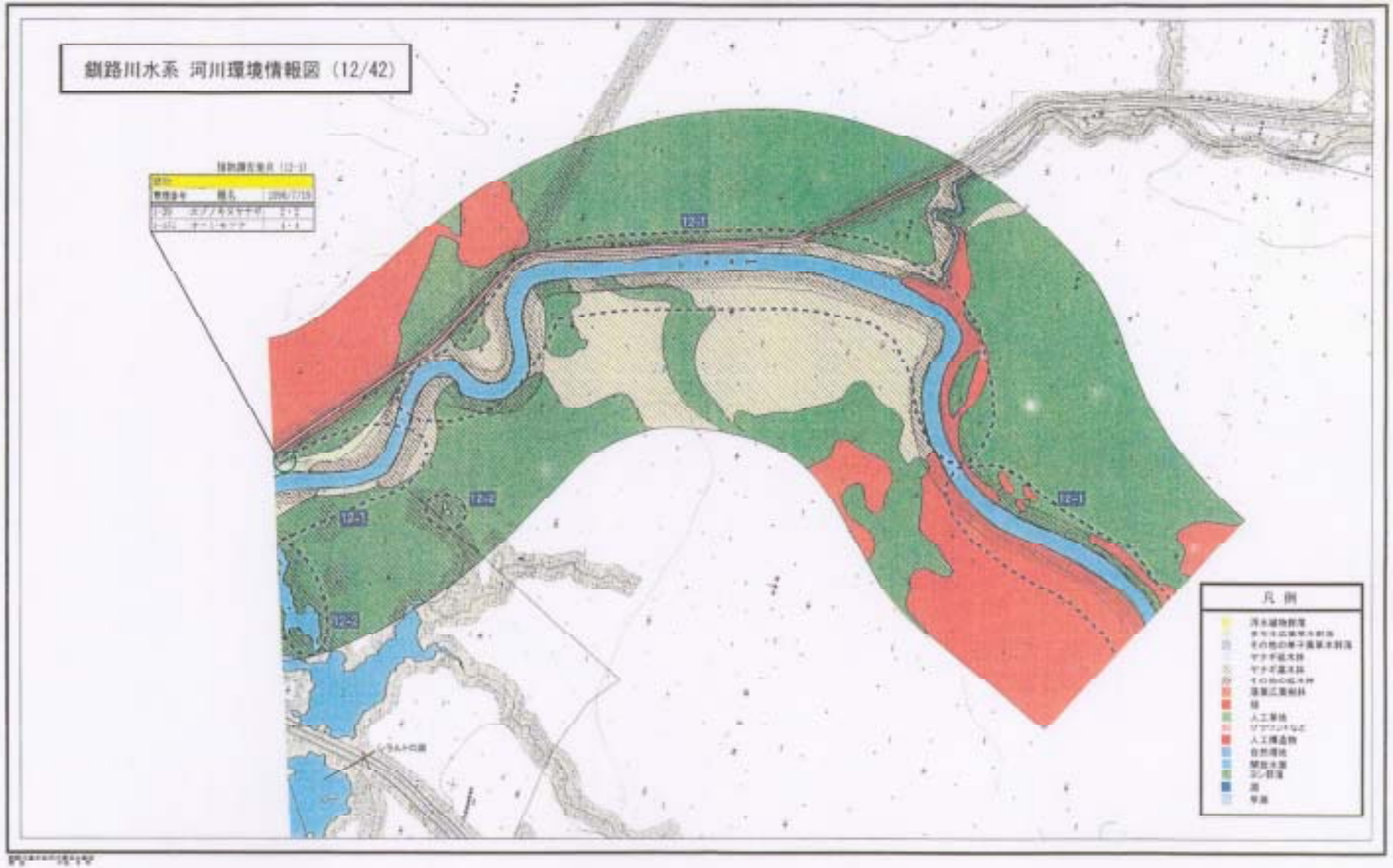
番号	対象区間	保全対象	留意事項
10-2	[illegible]	[illegible]	[illegible]

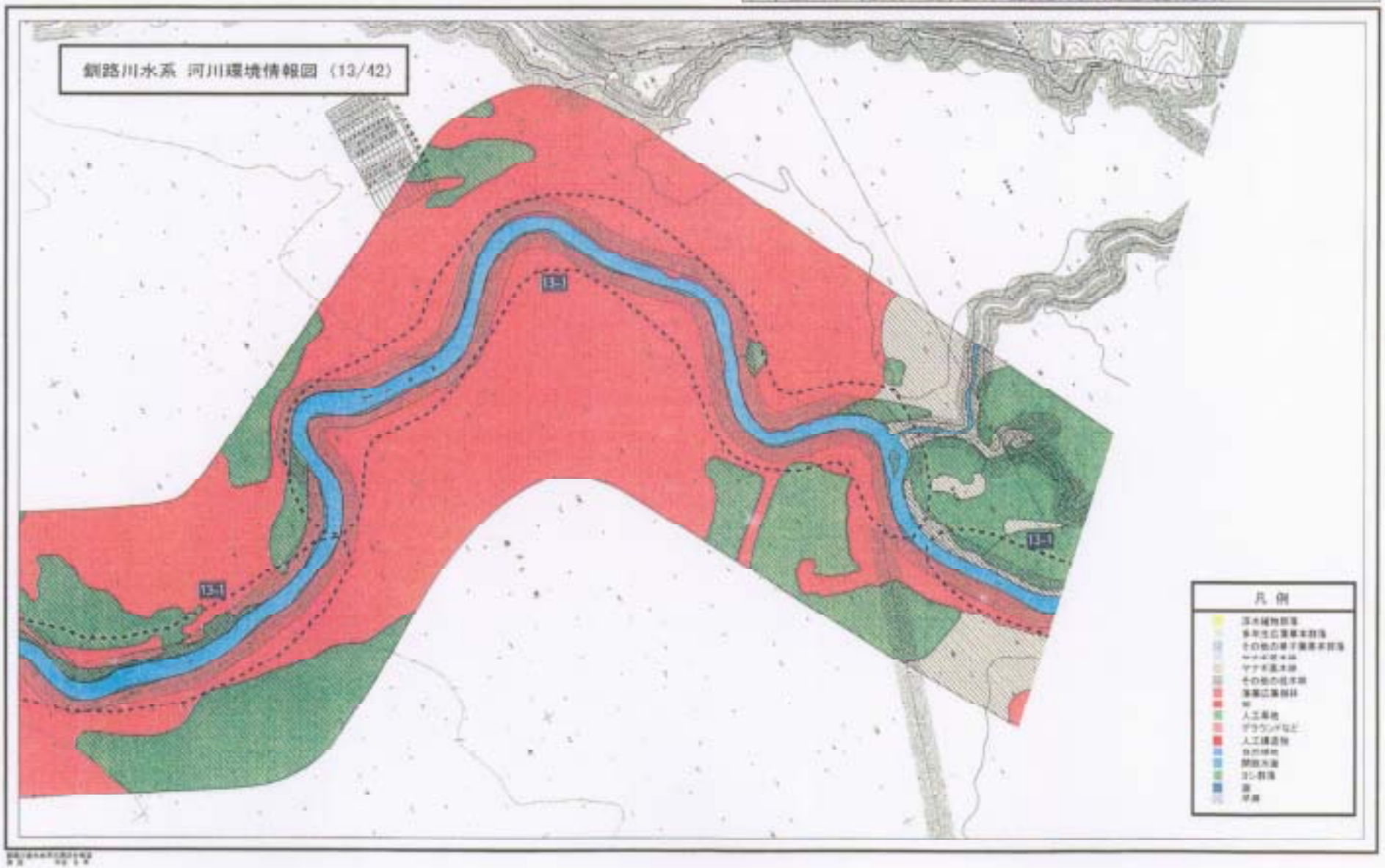


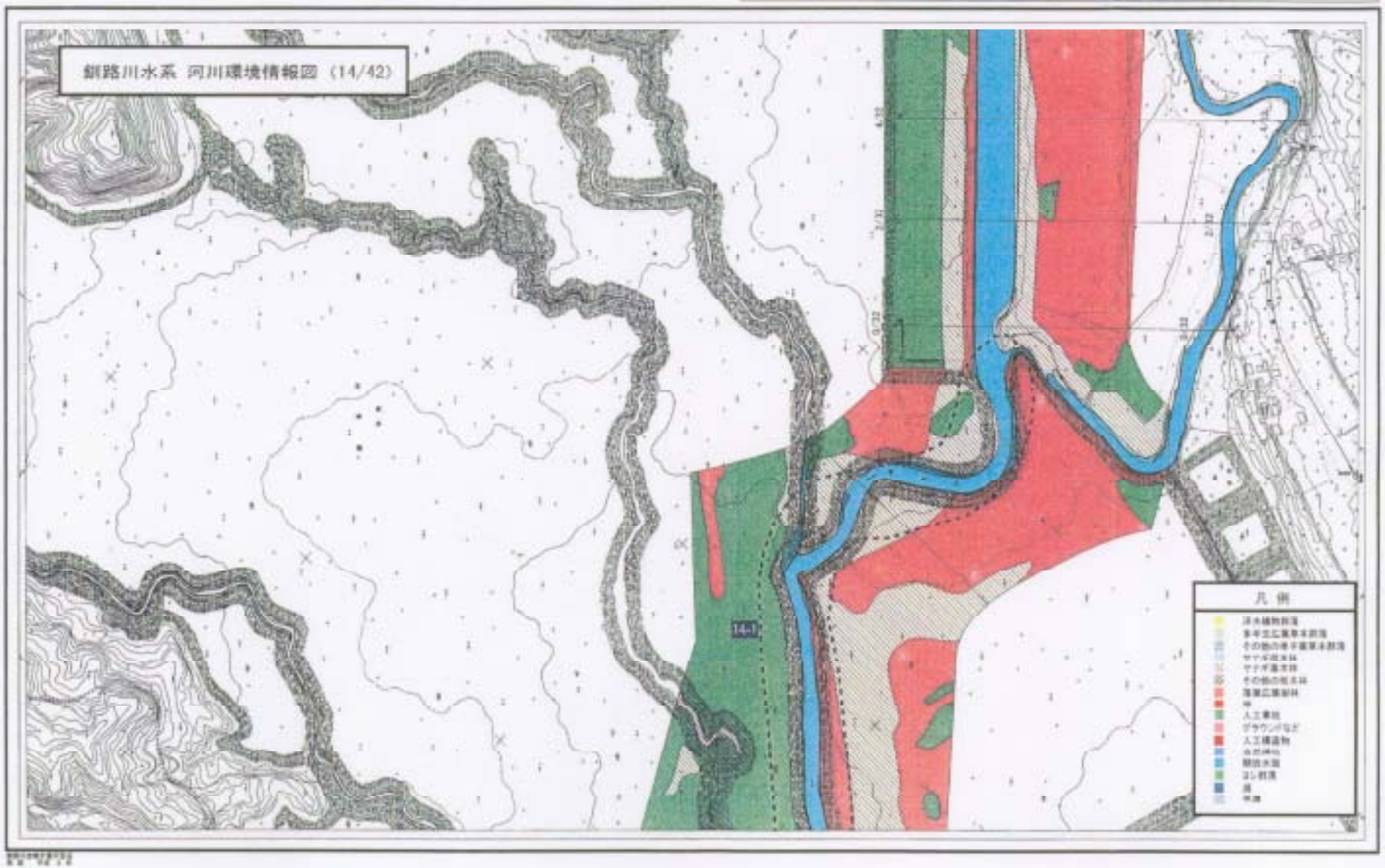
11-2	河跡湖	水草



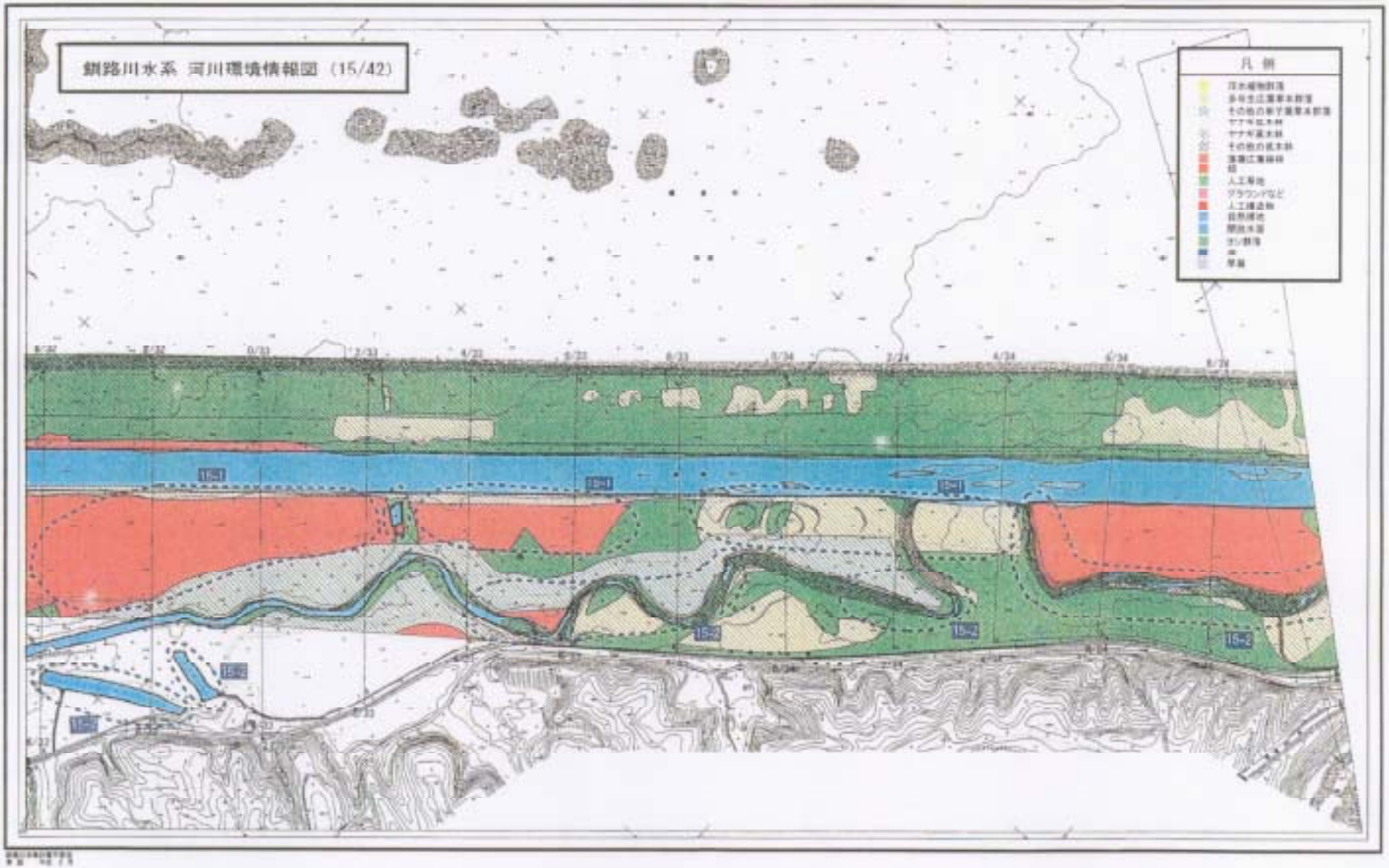
12-1	要注意箇所	要注意箇所の説明	注意しない箇所を記述する。河道内の植生を記載する。
12-2	河跡湖	水草	・過去に蛇行から分離した河跡湖はそれぞれが独自の環境のもとにいることを意味を形成している。 ・これらの生態系の中に生育している水草は河跡湖特有のものに発達していることが多い。 ・そのため、水質、水温、周辺植物による補論等の物理、化学的な変動に注意する必要がある。



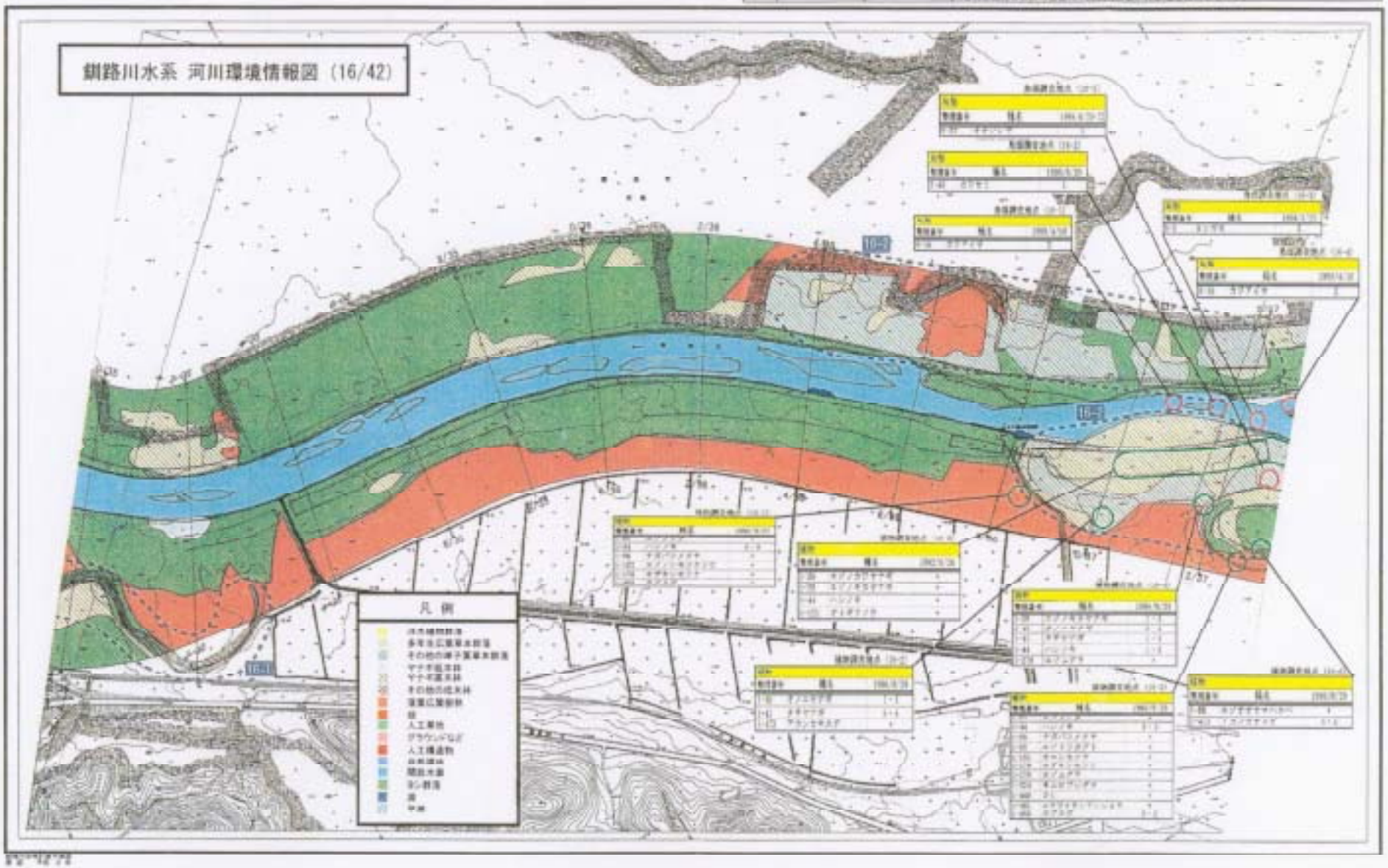

釧路川水系 河川環境情報図（13/42）
13-1
凡例


釧路川水系 河川環境情報図 (14/42)
14-1
凡例

番号	対象区域	特定対象	内容
15-1	河道周辺の河畔林	ヤナギ、ハンノキ	・河道周辺にヤナギ及ハンノキ林が存在していた。 ・これらの樹林は洪水時の流速を減殺するとともに、その流路変更を防止していた。
15-2	河跡湖	水草	・河道に隣接した位置に河跡湖は存在しており、河跡湖はオオヒシ、ヒシ類、ヒツジグサ、ヒメフラスコモ等の水草が生育していた。 ・これらの水草は、水質浄化、魚類、鳥類、昆虫類などの生息・生育・繁殖の場となっていた。 ・そのため、洪水、渇水、河川工事による樹林帯の消滅、人為的な環境の変化などは重大な影響がある。

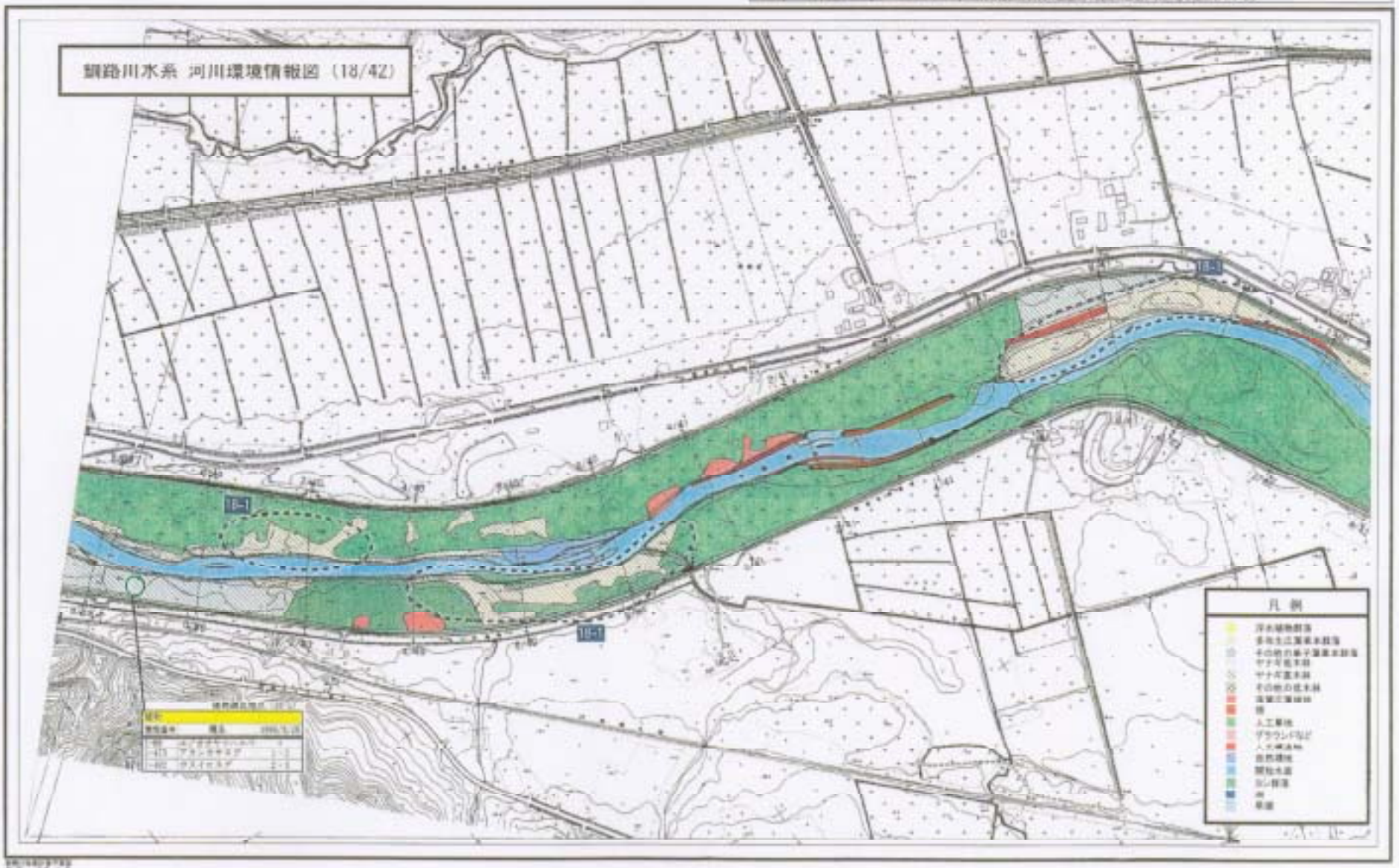


16-1	河跡湖	水草	・[illegible] ・これらの生育基盤の中に生育している水草は河跡湖特有のものに属する。[illegible] ・その他、水質、水温、周辺地形による環境要因の特性、[illegible]に影響を及ぼす要件がある。
16-2	河道周辺の河畔林	ヤナギ、ハンノキ	・河道周辺にはヤナギ及びハンノキが生育している。 ・これら河畔林群の生育地で規模の情報、[illegible]を提供している。

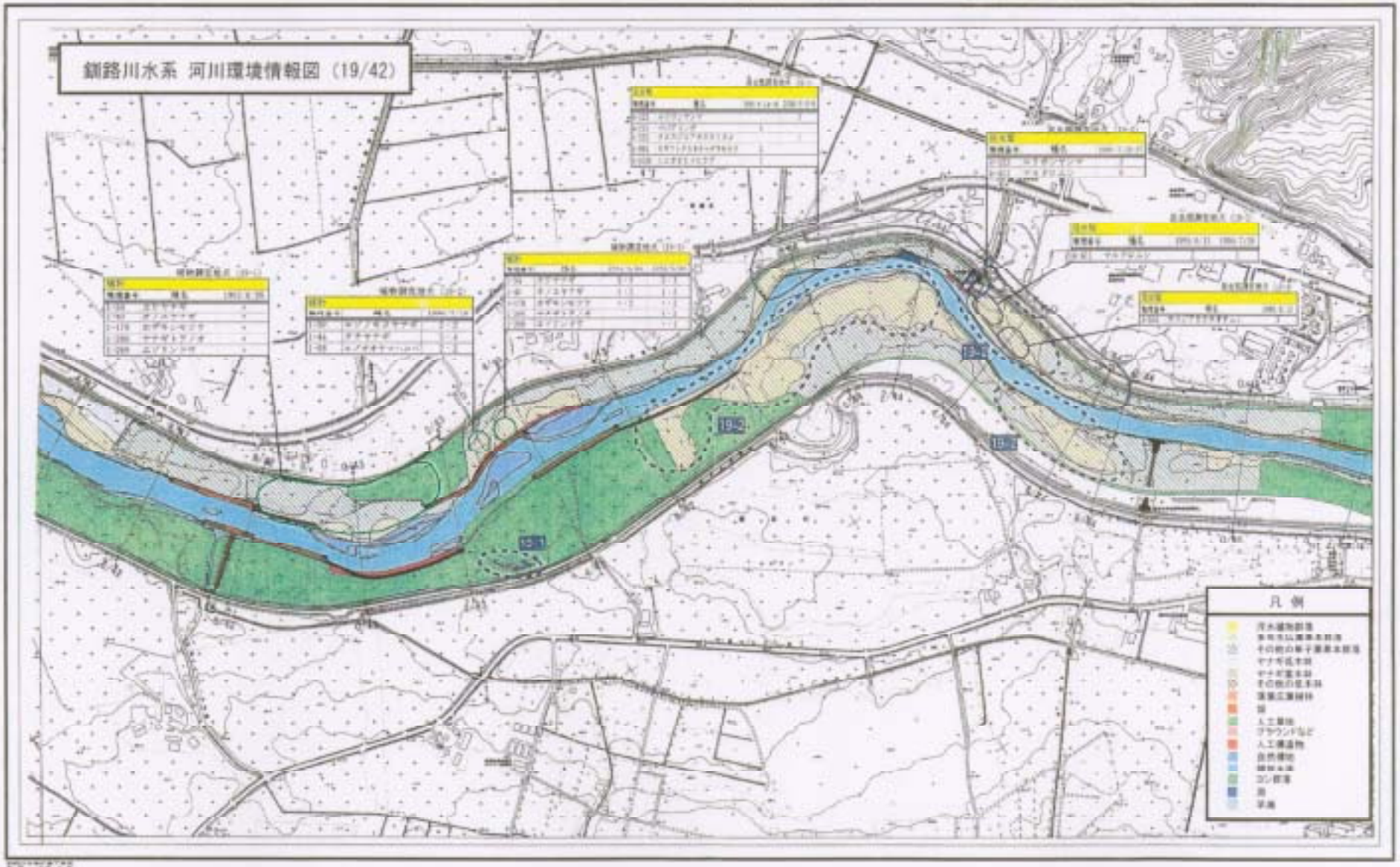


17-1	河跡湖	水草	・[illegible] ・[illegible] ・[illegible]

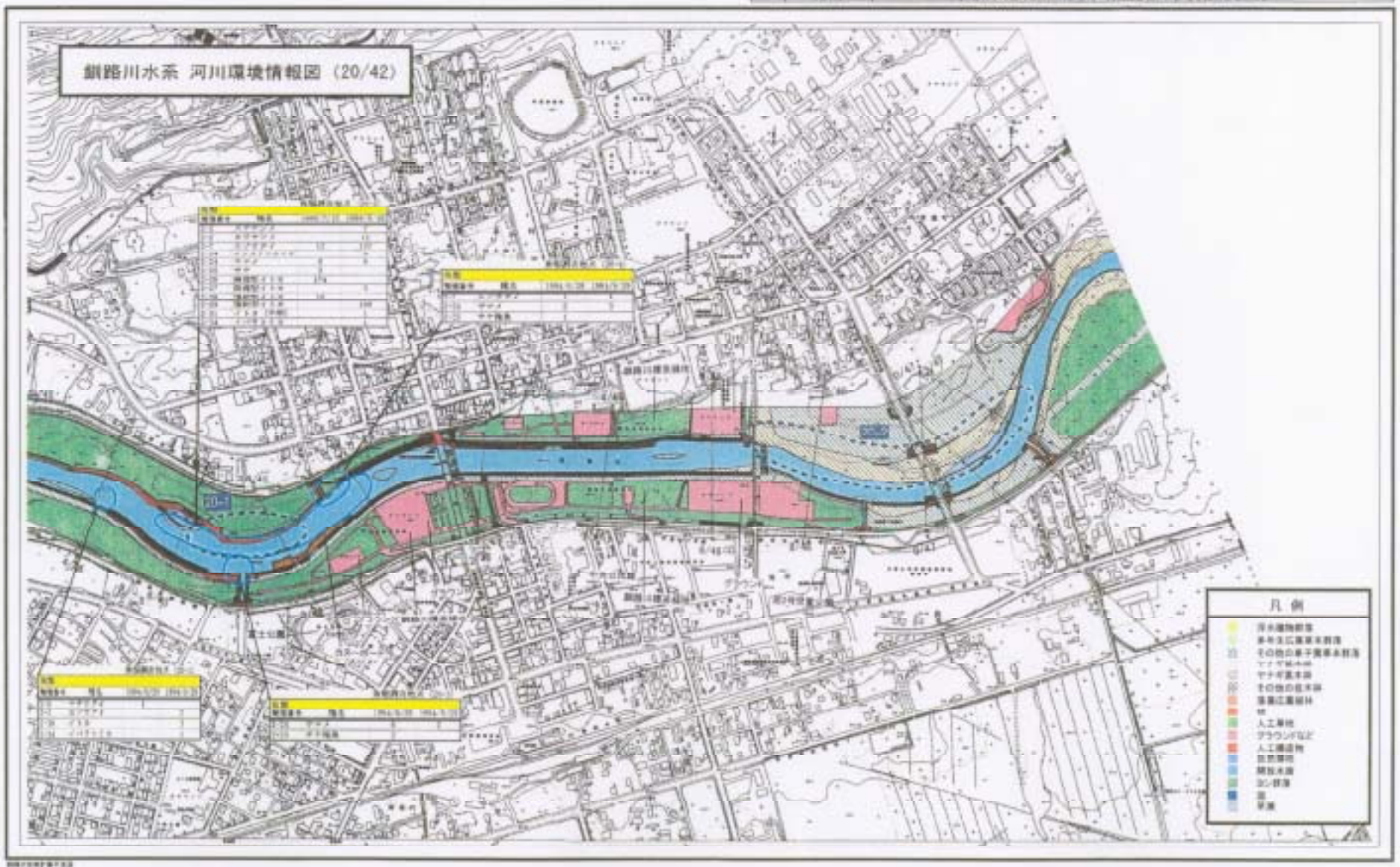
18-1	河畔林の分布状況	ヤナギ高木林	河畔林は、ヤナギ高木林が分布している。 ・河畔林は、ヤナギ高木林の分布状況の情報に、航空写真を使用している。



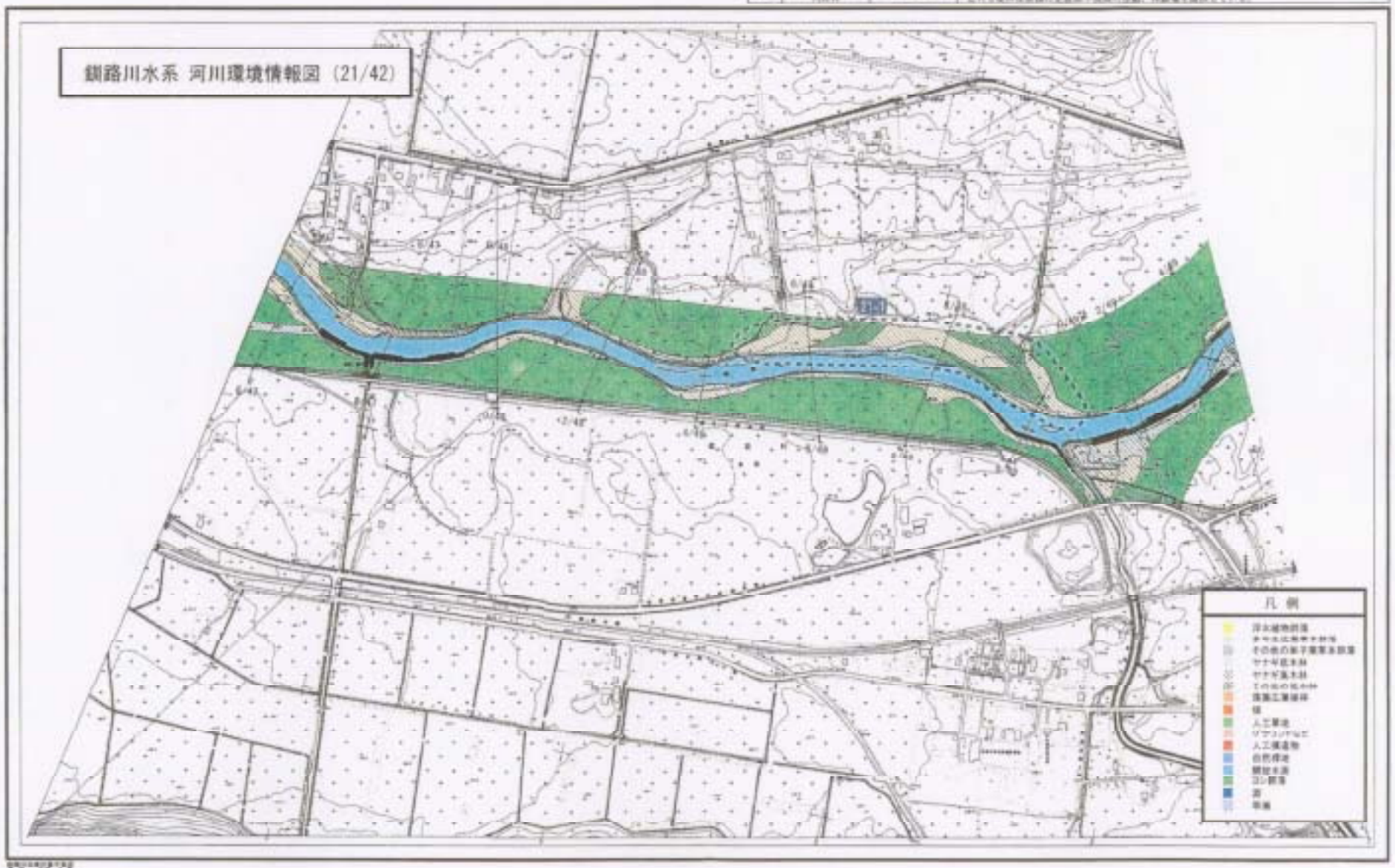
番号	対象地区	保全対象	保全の方策
19-1	河跡湖	水草	・これらの生態系のポイントは、地形的にはいろいろな要素が複雑に絡合っているものと考えられます。 ・そのため、水質、水位、流況の変化による植生遷移の特性、仕方がに関係しているものと考えられる。
19-2	河畔林とその周辺林	ヤナギ高木林	・河畔林は、ヤナギ高木林がクマタカの生息地となっている。 ・また、樹林は海鳥の生息地や採餌の場、休憩地を提供している。



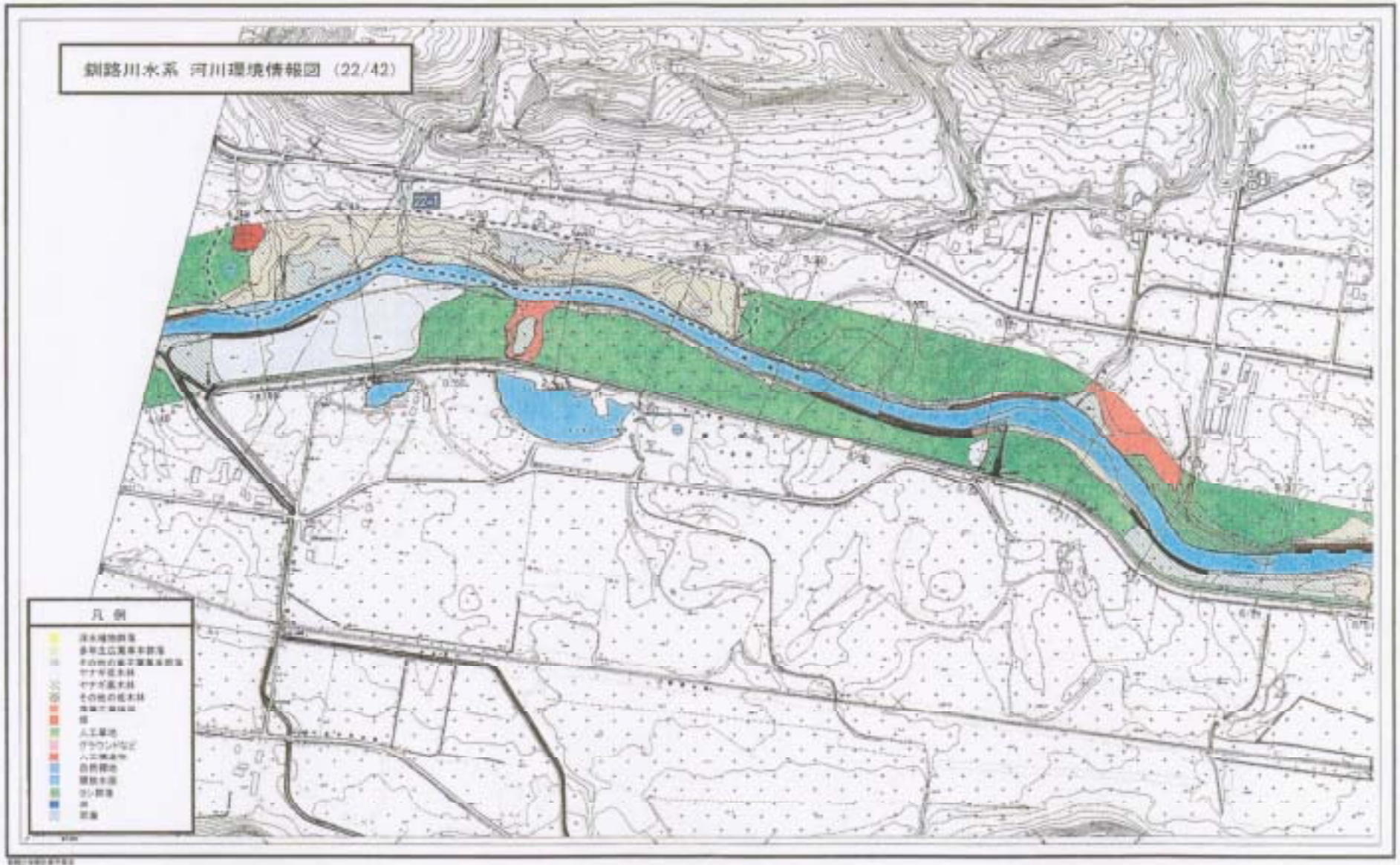
番号	名称	種名	内容
20-1	カワサンショウウオ生息地	カワサンショウウオ	・カワサンショウウオの産卵がみられている。 ・餌生場所、隠れ場所を確保するために河岸の水生植物を保護する。 ・産卵期（3～4月、9～10月）において、通行規制の実施する。
20-2	河道周辺の河畔林	ヤナギ高木群	・河道周辺において、広範囲に渡ってヤナギ高木群が生育している。 ・これらの樹林は魚類の生息地や鳥類の移動、採餌場を提供している。



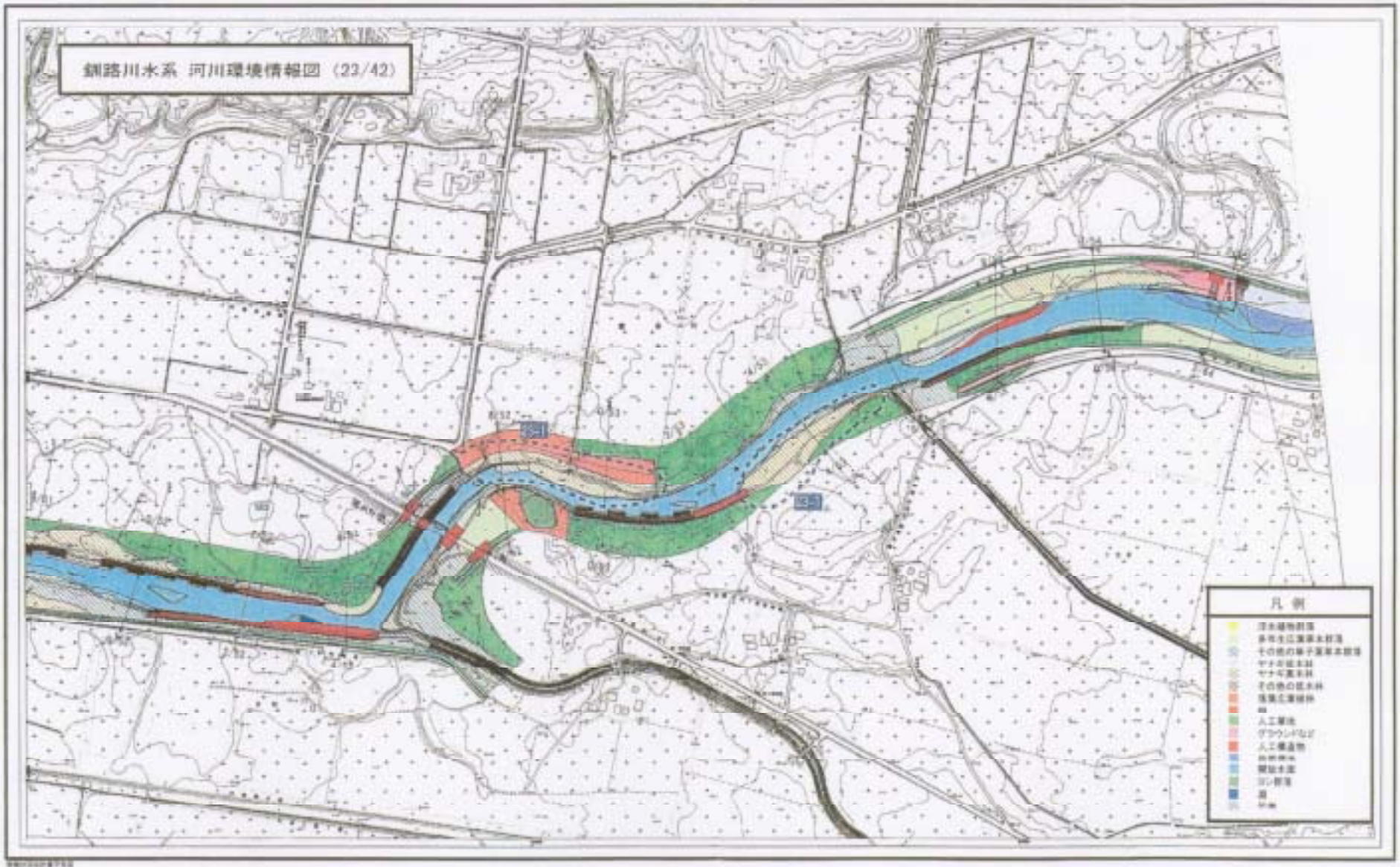
21-1	河道周辺の河畔林	ヤナギ高木林	・河道周辺にはヤナギ高木林が分布している。 ・これら樹林は魚類の生息地や鳥類の採餌、休息場を提供している。



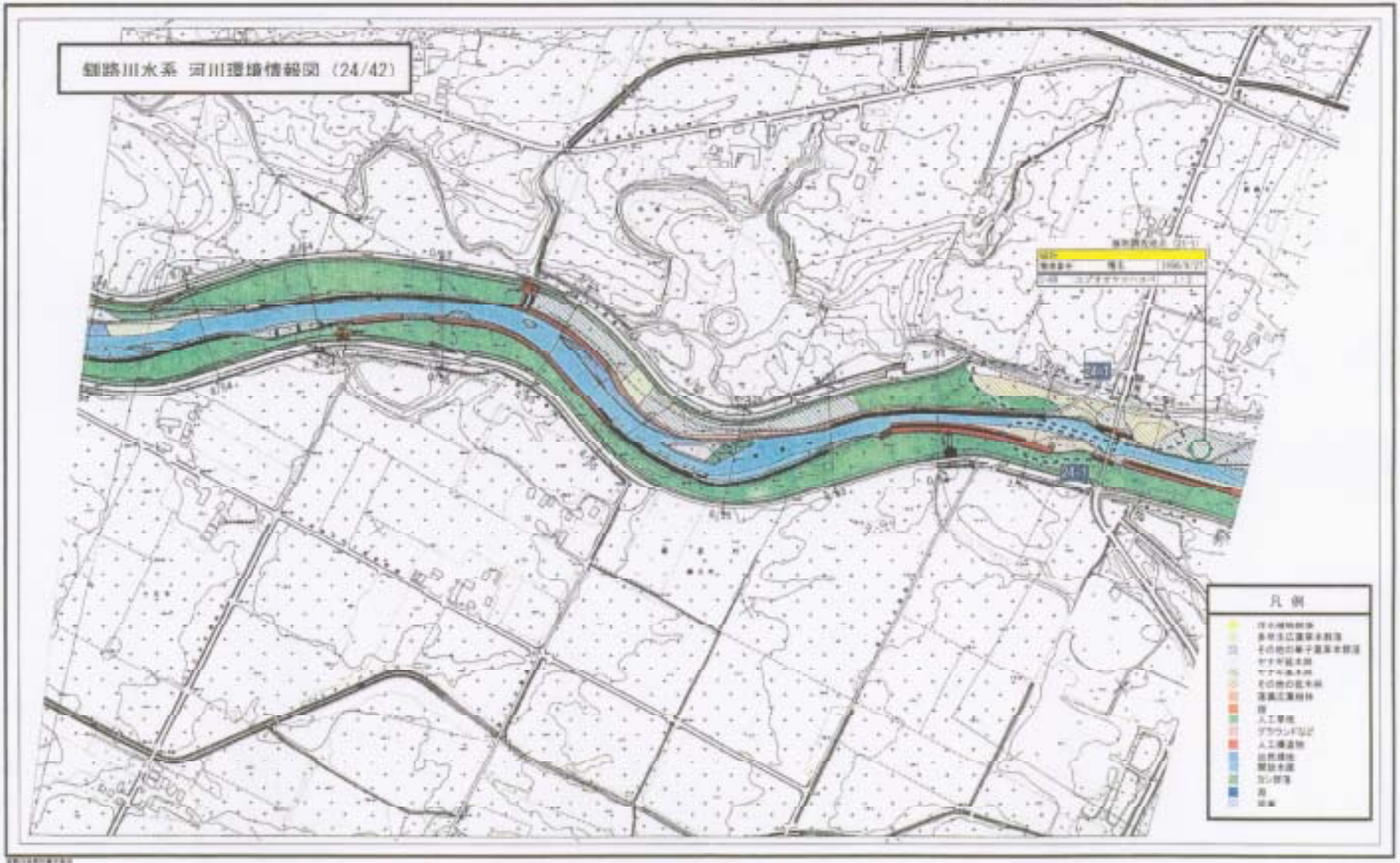
番号	対象区域	対象群落	特記事項
21-1	[illegible]	ヤナギ低木林	これら植物は湿潤な立地や異形の環境、攪乱地を選択していた。



[illegible]	[illegible]	ヤナギ高木林	[illegible]これら群落は高度の乾生化[illegible]の移動、環境場を提示している。

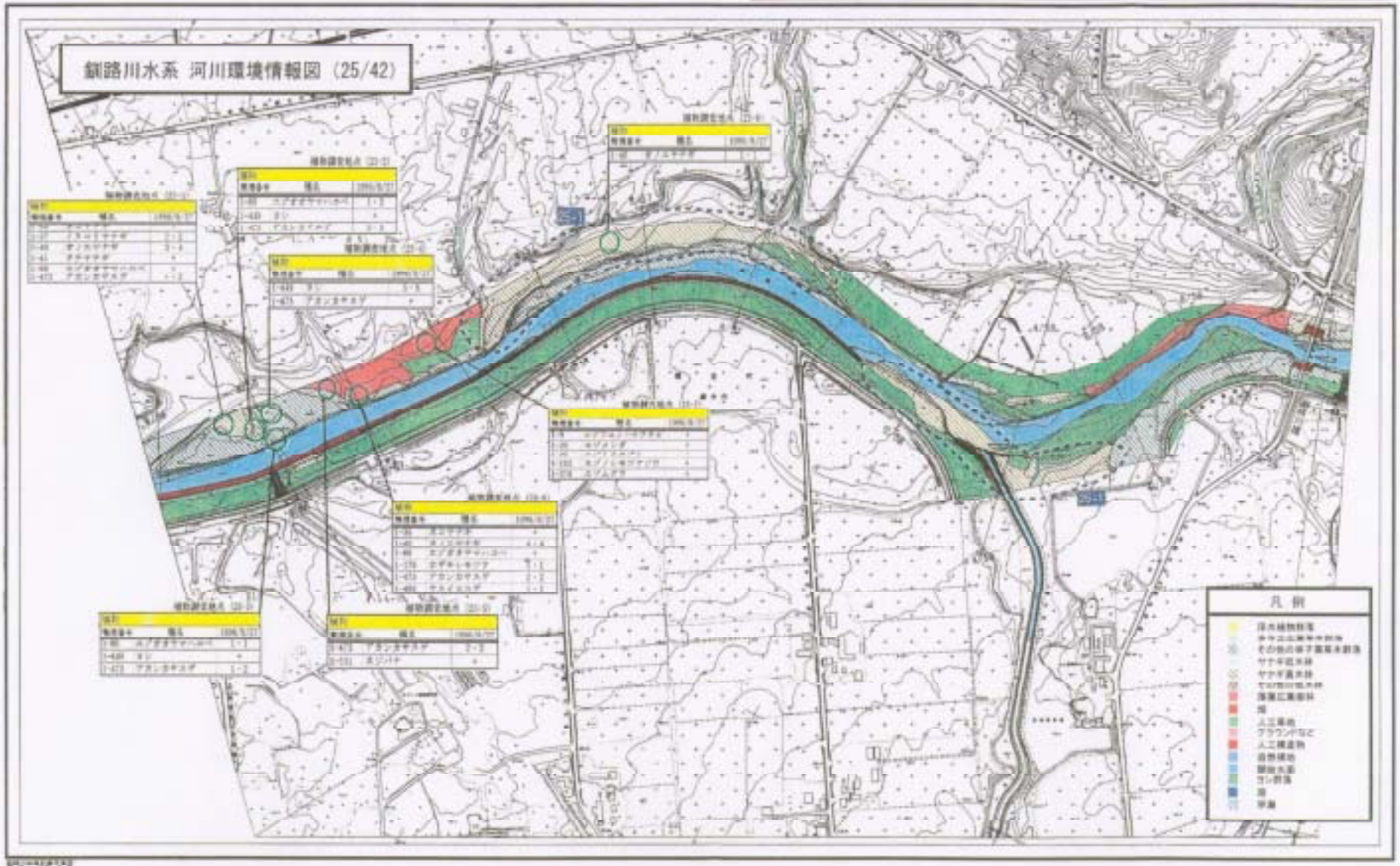


番号	対象箇所	保全対象	必要な対策の方向
(24-1)	[illegible]	ヤナギ類木林	・これら樹林は高齢化を迎え中高齢の樹齢、樹勢衰を進行している。

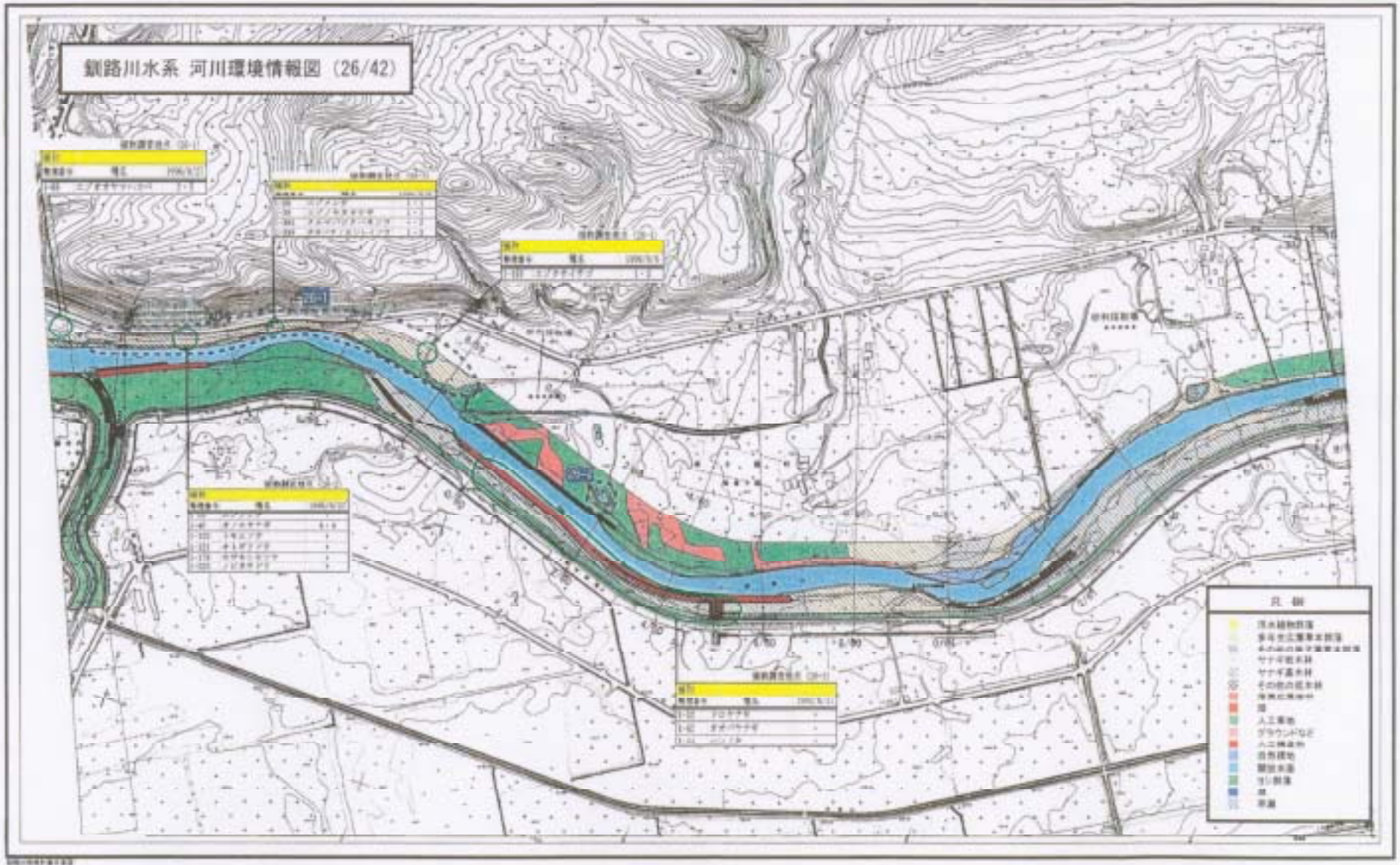


資料-47

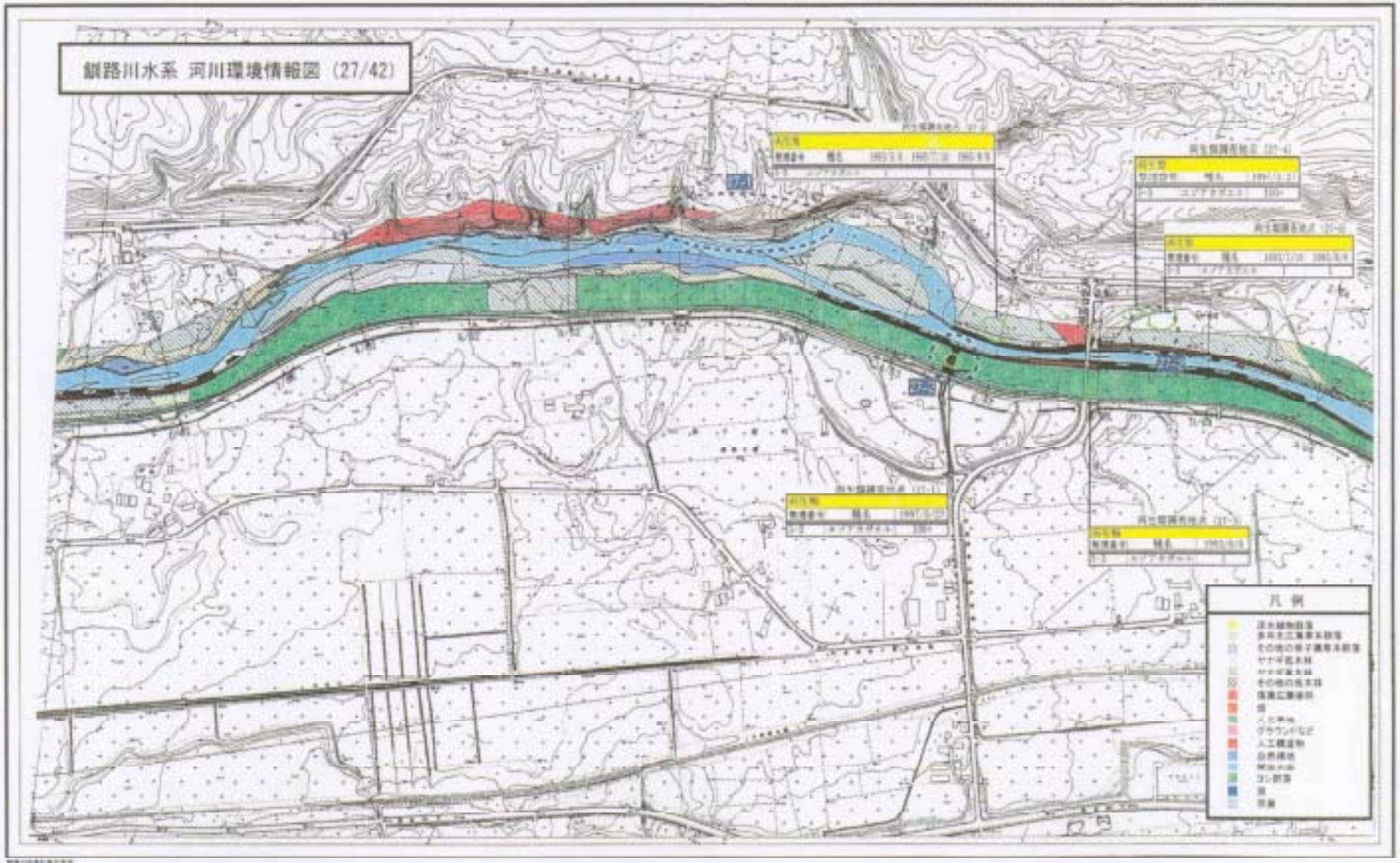
図名	対象区間	保全対象	留意事項
25-1	河道内の高木林	ヤナギ高木林	・河道内にはヤナギ高木林が点在している。 ・これら樹林は魚類の生息地や鳥類の休憩、採餌場を提供している。



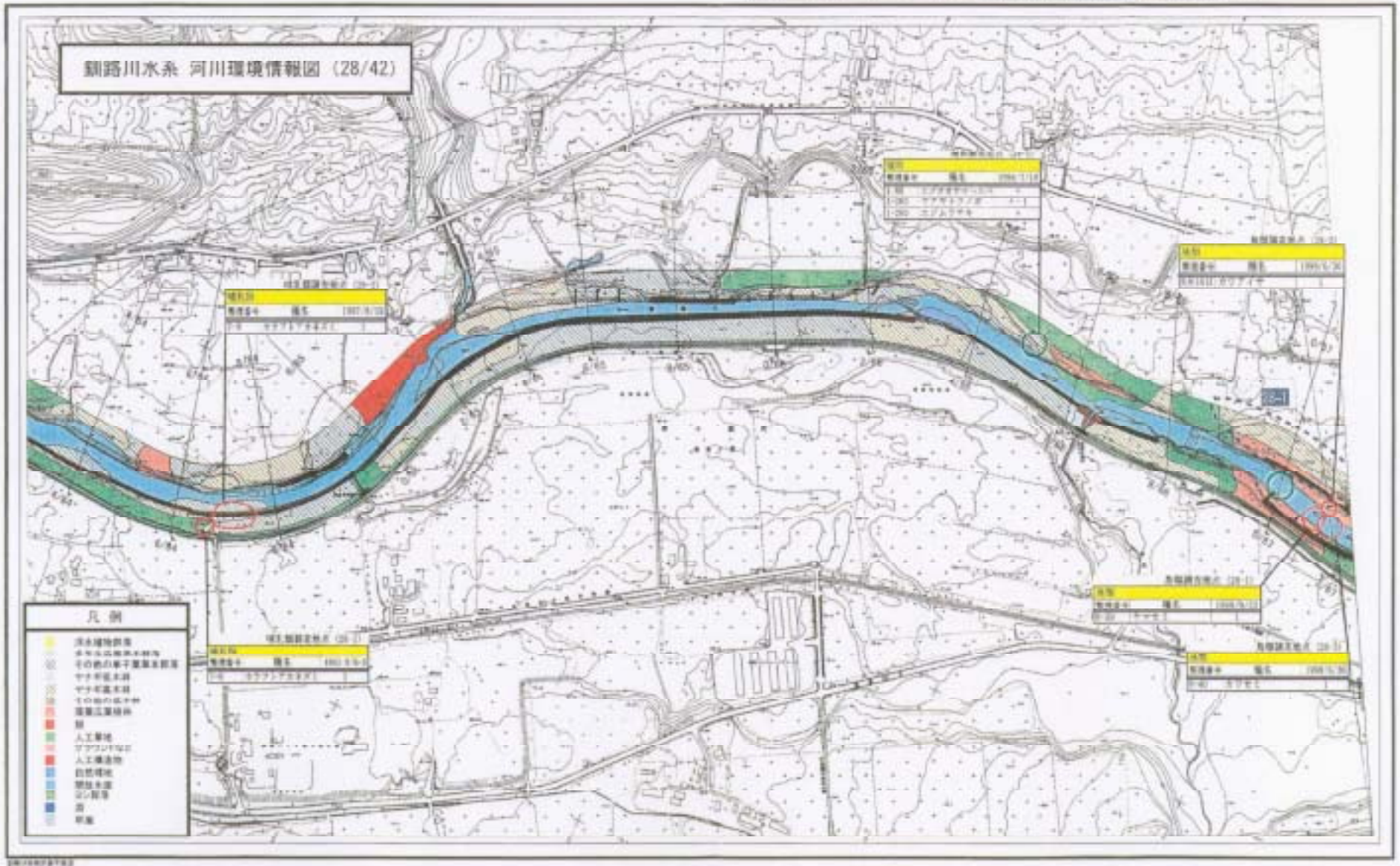
26－1	河畔林の河畔林	ヤナギ高木林	・現在、ほとんどの区間にヤナギ高木林が生育している。 ・堤防すぐにカワセミが繁殖している可能性がある。そのため、堤の前に分布しているヤナギ林は保存する必要がある。また、カワセミの繁殖期である3月～8月は工事等は控える必要がある。 ・また、これらの樹林は洪水時の土砂や流木の移動、保留機能を担っている。
26－2	河畔草	水草	・過去に護岸工や切り替しの河畔草はそもそもが残念の環境のもとにしたり生態系を形成している。 ・これらの生態系の中に生育している水草は河畔草特有のものに発達していることが多い。 そのため、水草、水温、濁り度などによる植生等の保護、モザイク状環境に注意する必要がある。



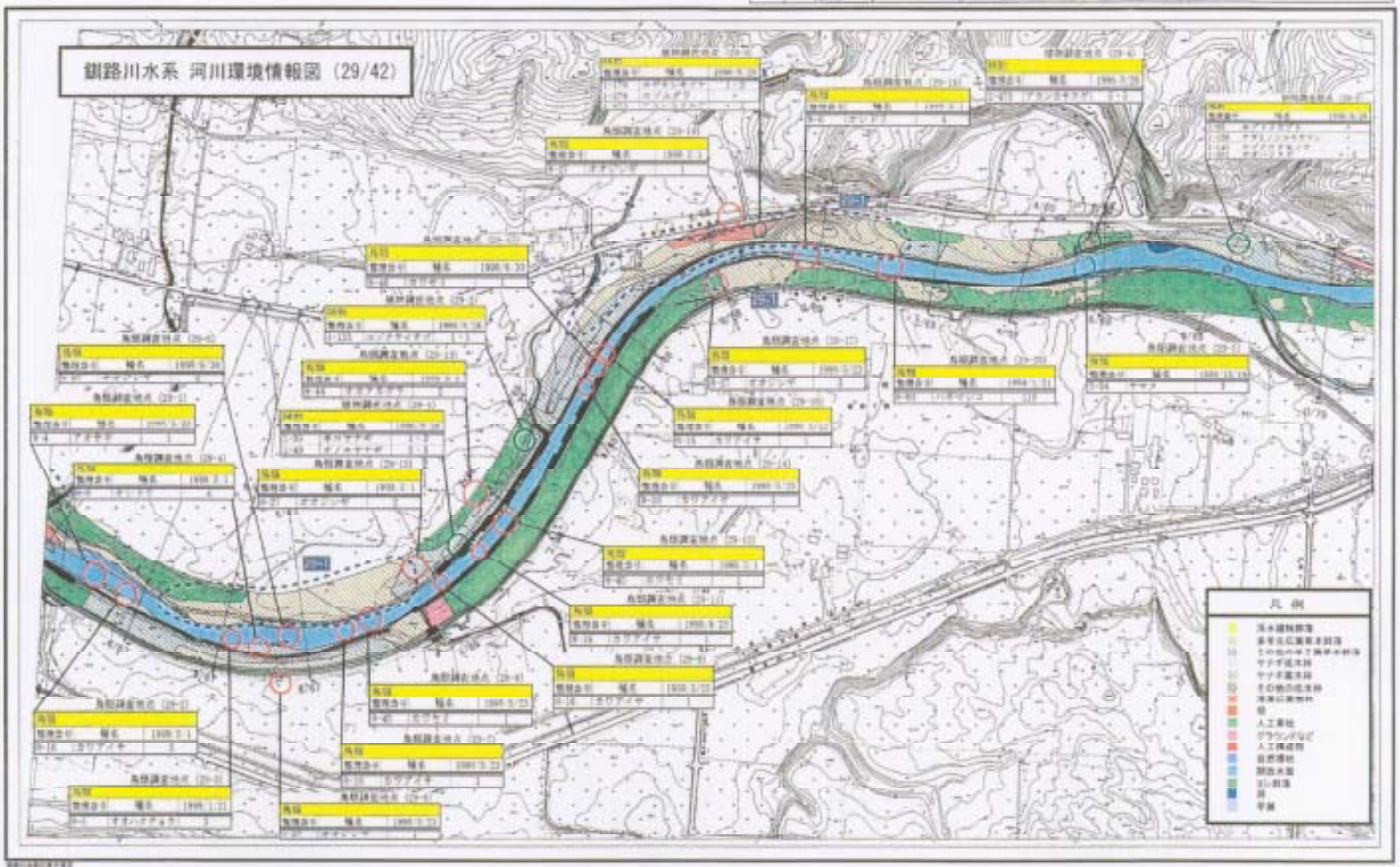
27-1	円通寺川 河口付近	ヤナギ高木林	・ヤナギ高木林はヤナギを主体とした群落である。 ・これら事例は地盤から生育中高部の情報、植物種を提供している。
27-2	エゾアカガエル 産卵地	エゾアカガエル	・エゾアカガエルの産卵数は100個体以上が確認している。 ・産卵期は4月下旬～5月までの1ヶ月間である。 ・また、当時の情報を保護し、確保していく。保護を図る。

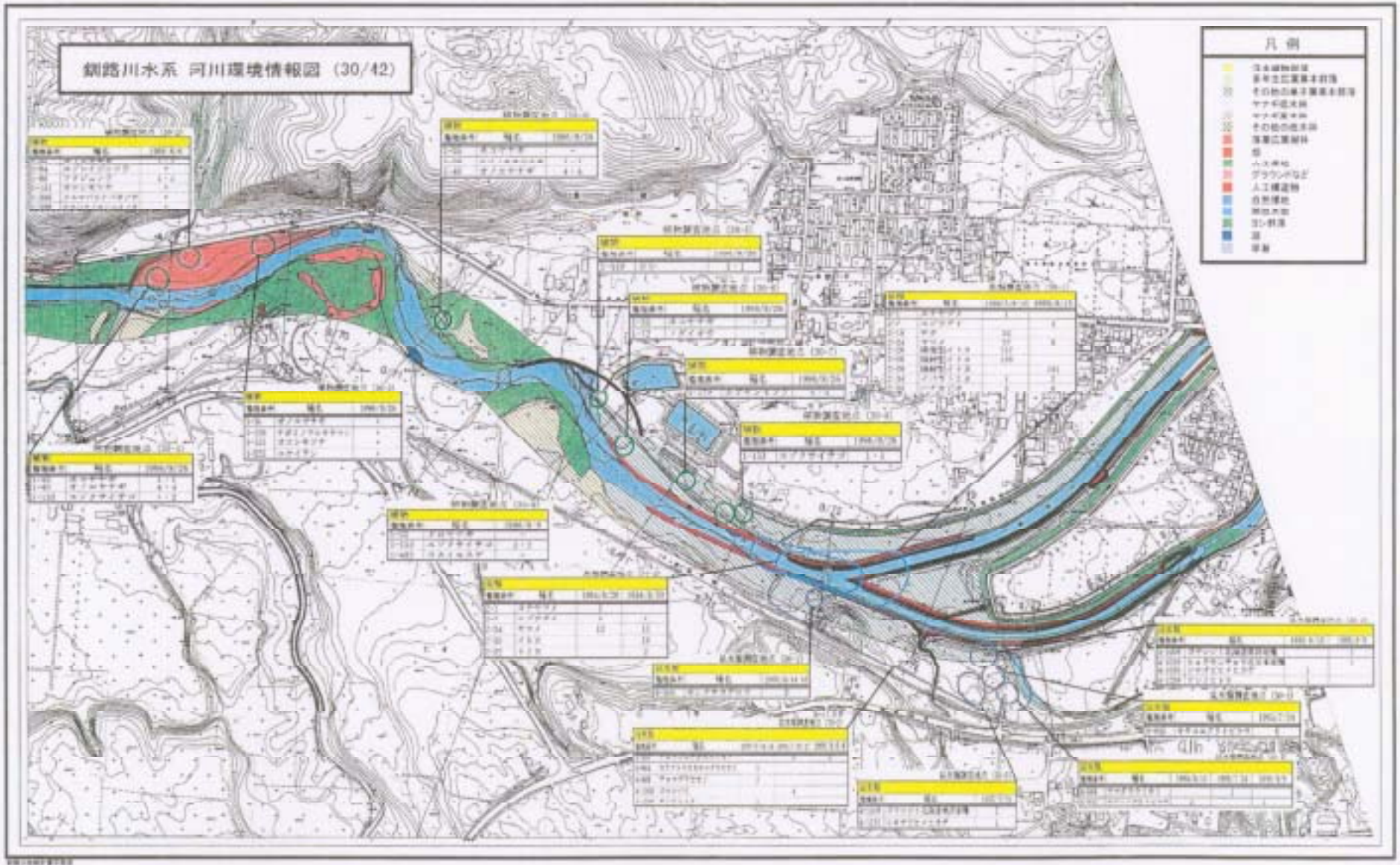


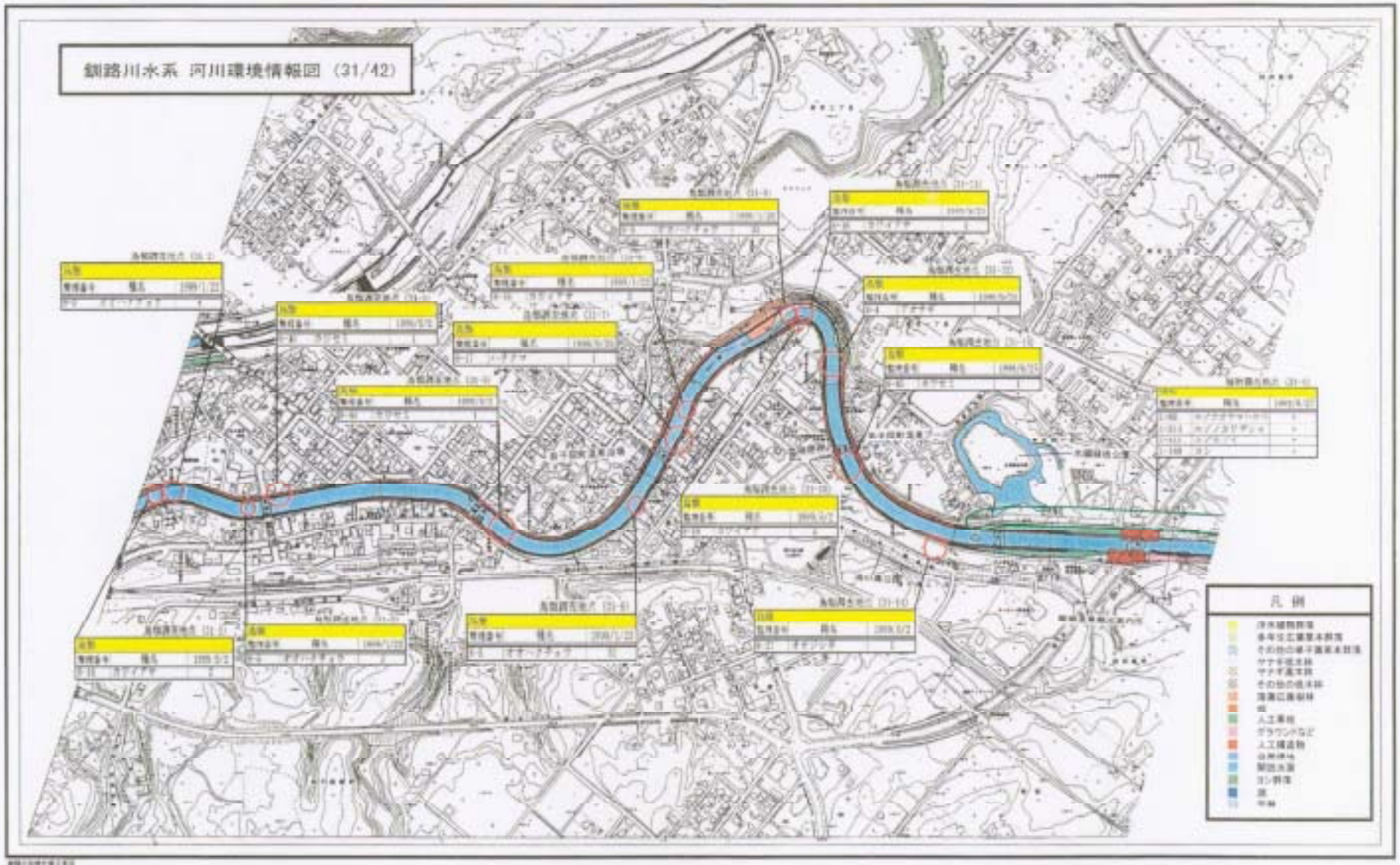
28-1	河道内の河畔林	ヤナギ高木林	河道内には河畔林が発達している。 これら河畔林は洪水時の流水の抵抗、保水機能を担っている。

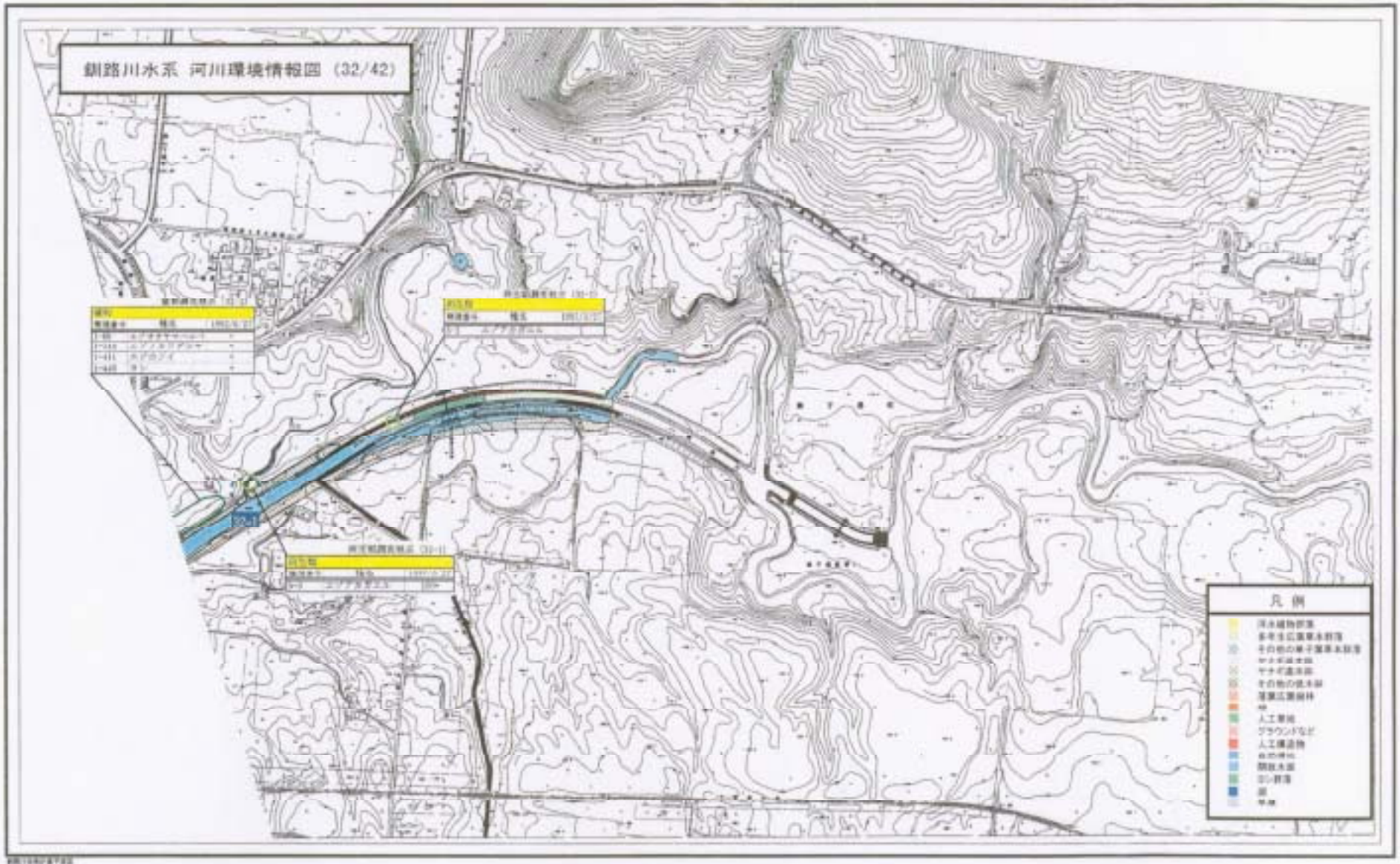


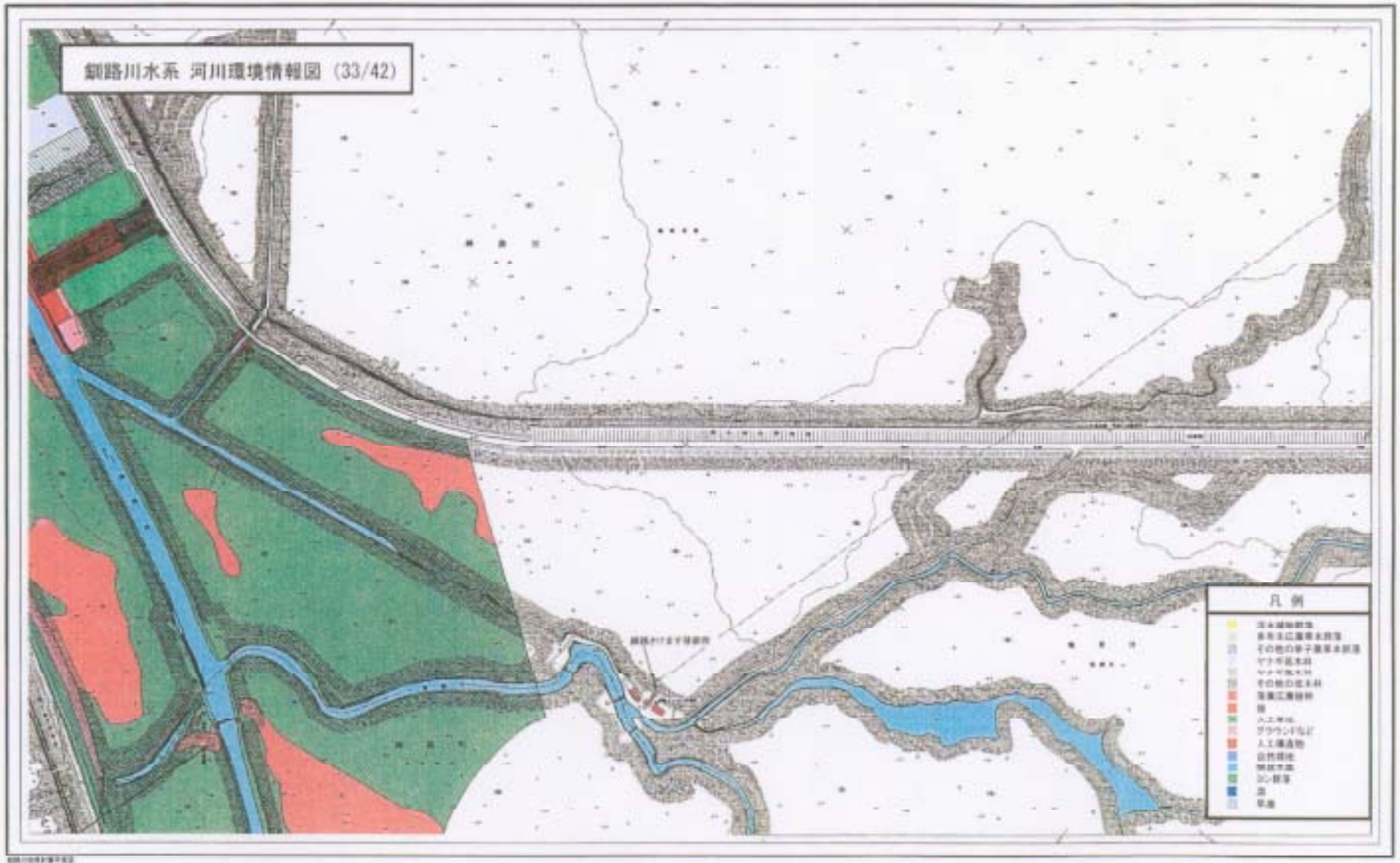
29-1	河道開口部 河岸林	ヤナギ高木林	河道開口部は、はるかに広がっている。 こんもり林は高野の生育地で移動、移植地を表示している。

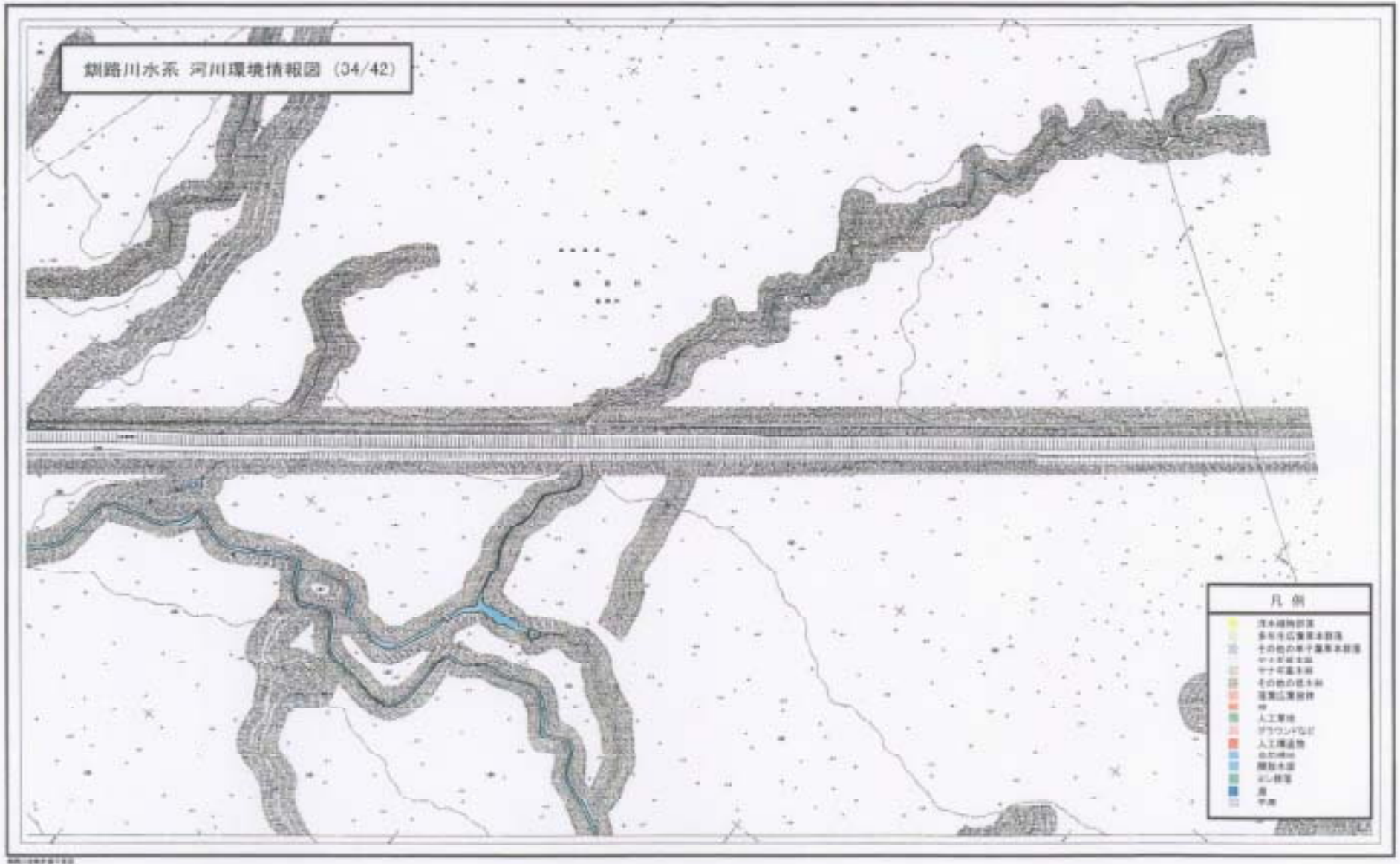


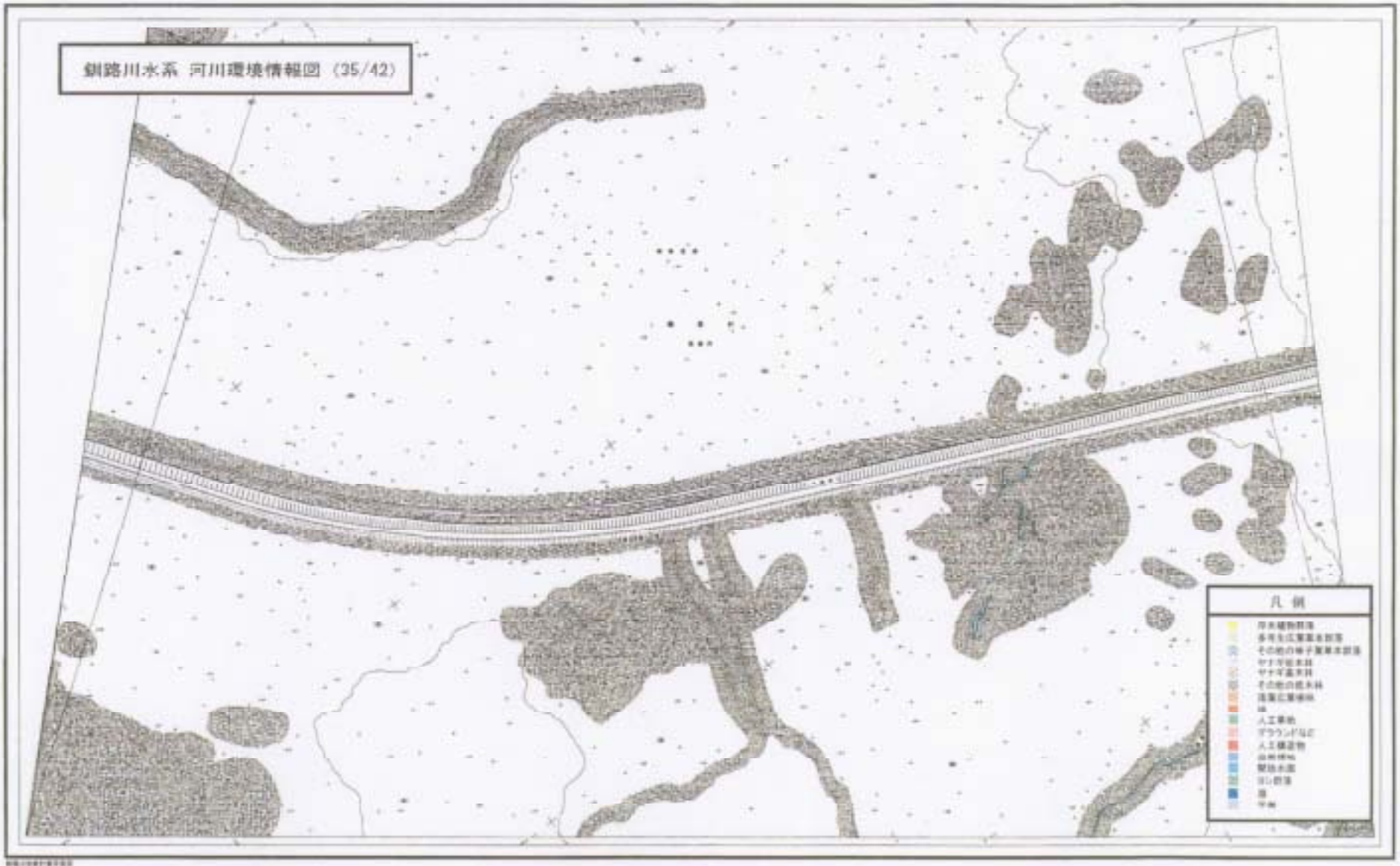

釧路川水系 河川環境情報図 (30/42)
凡例

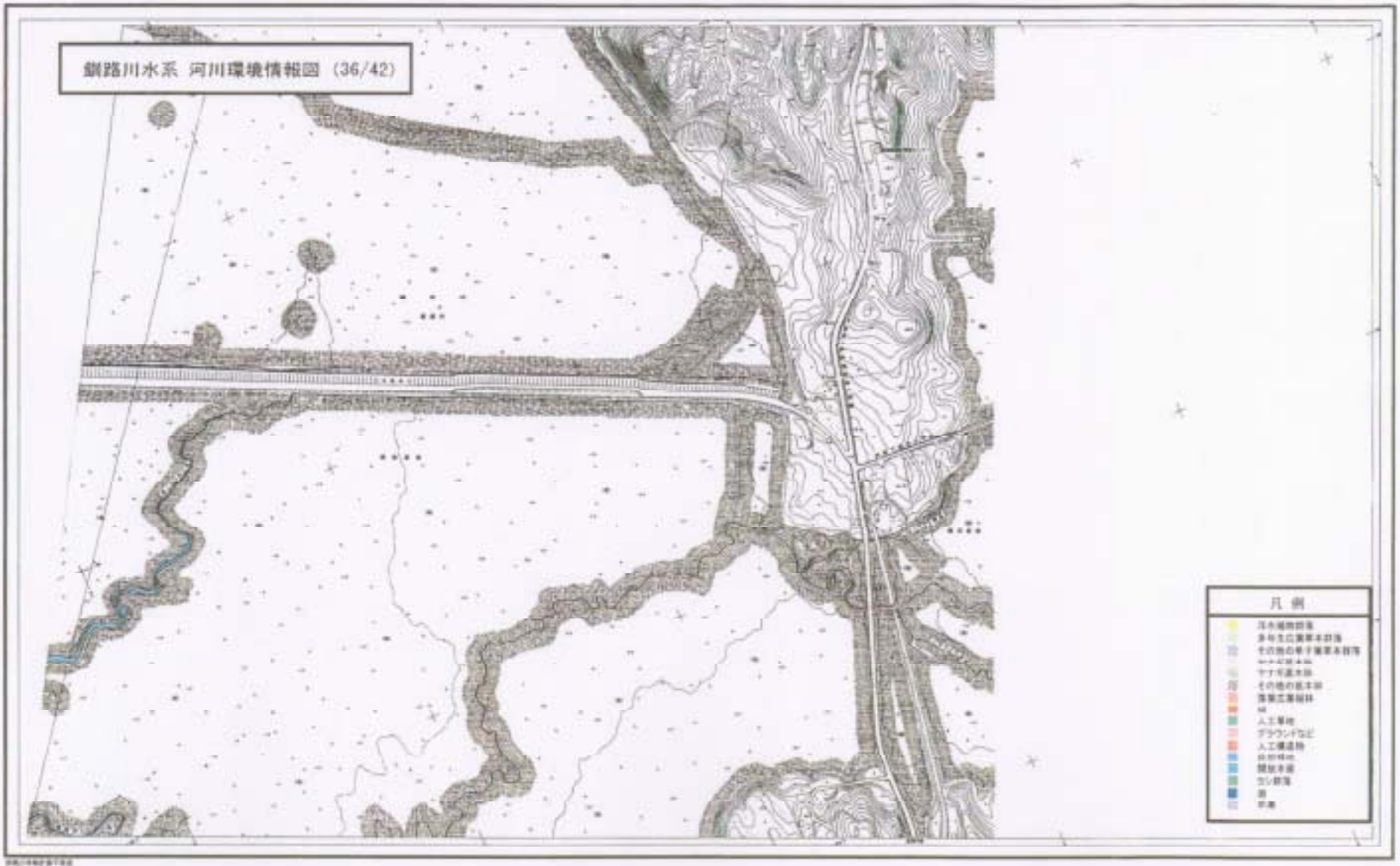

釧路川水系 河川環境情報図 (31/42)
凡例

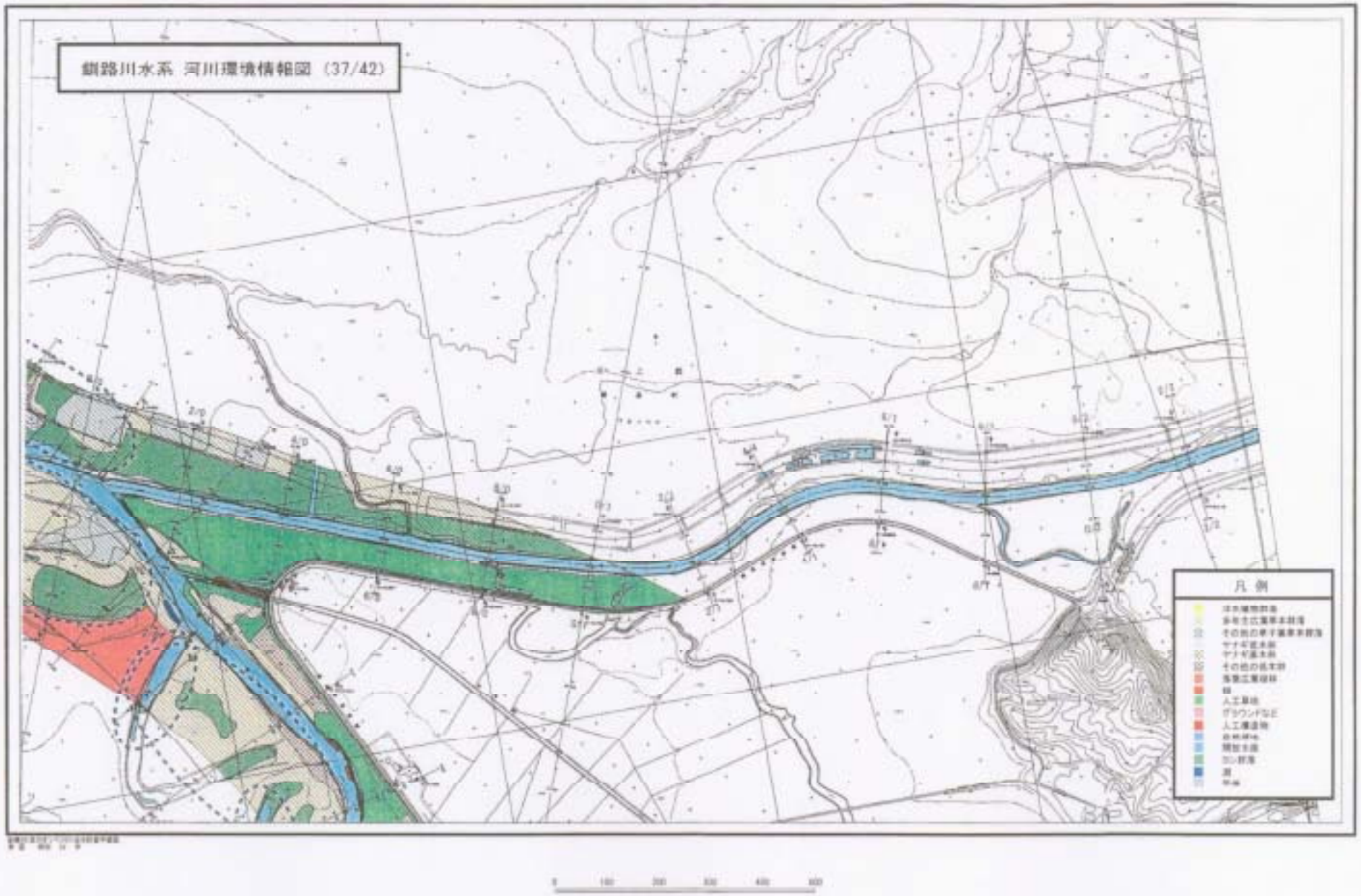

釧路川水系 河川環境情報図 (32/42)
凡例

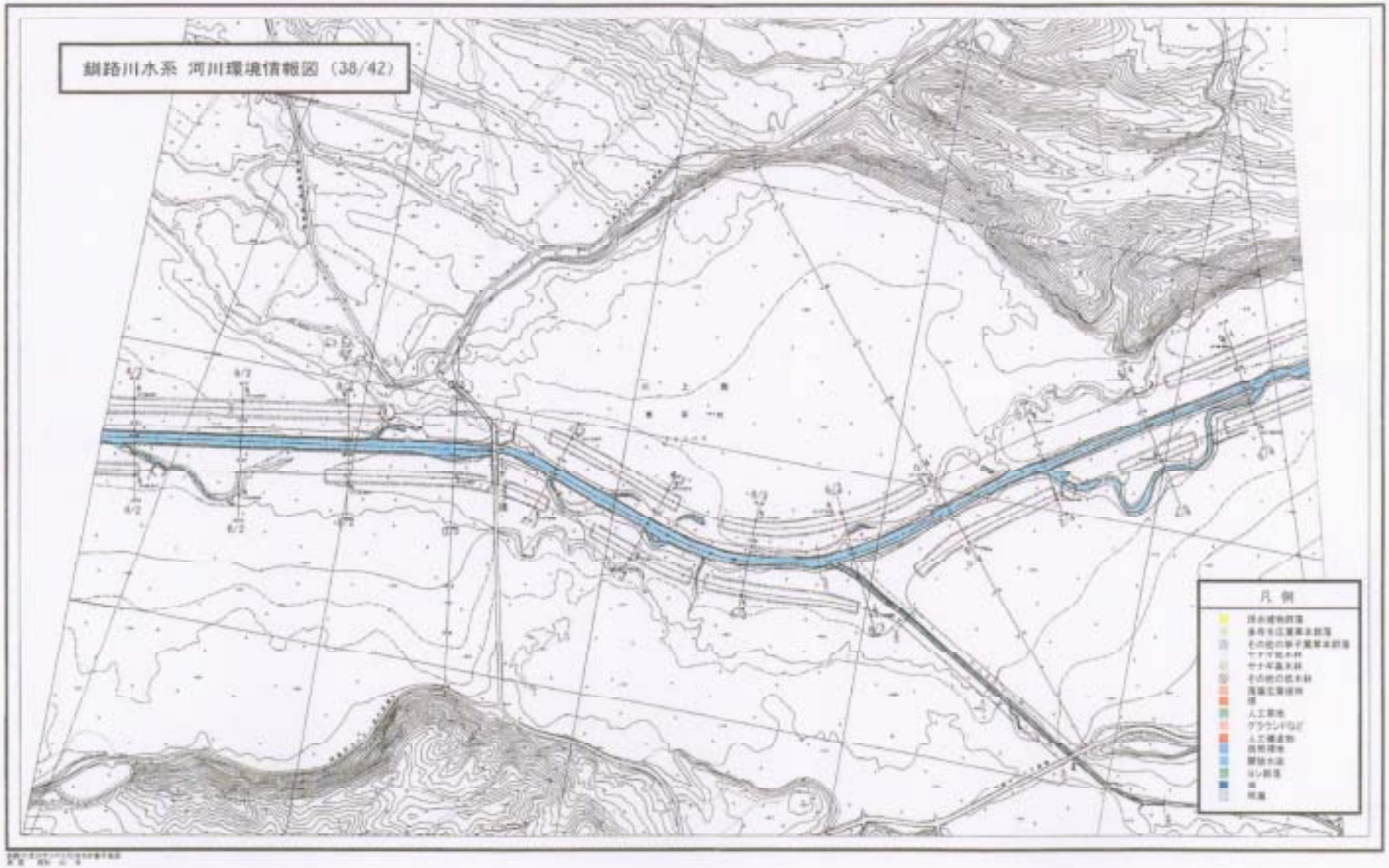

釧路川水系 河川環境情報図 (33/42)
凡例

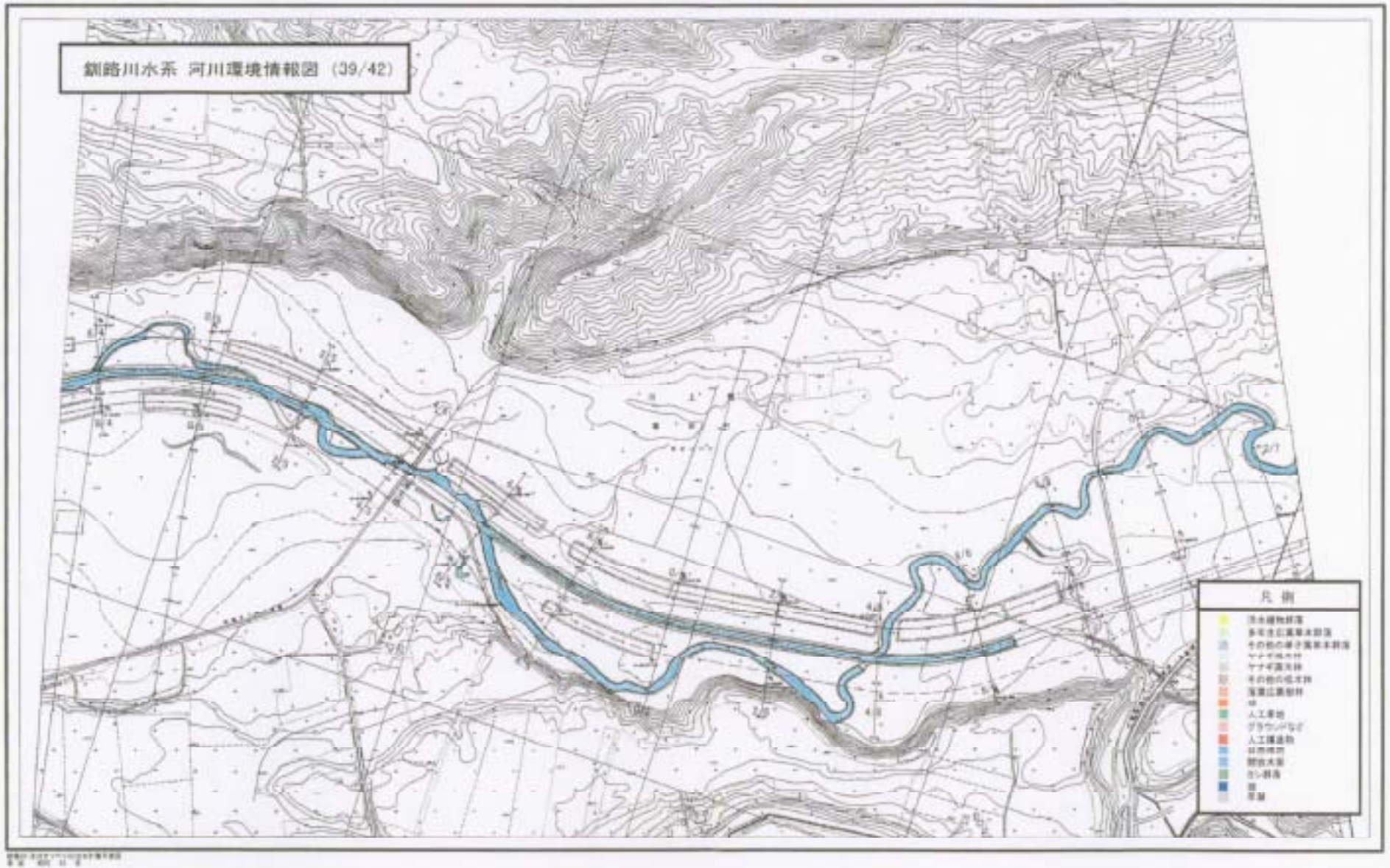

釧路川水系 河川環境情報図 (34/42)
凡 例

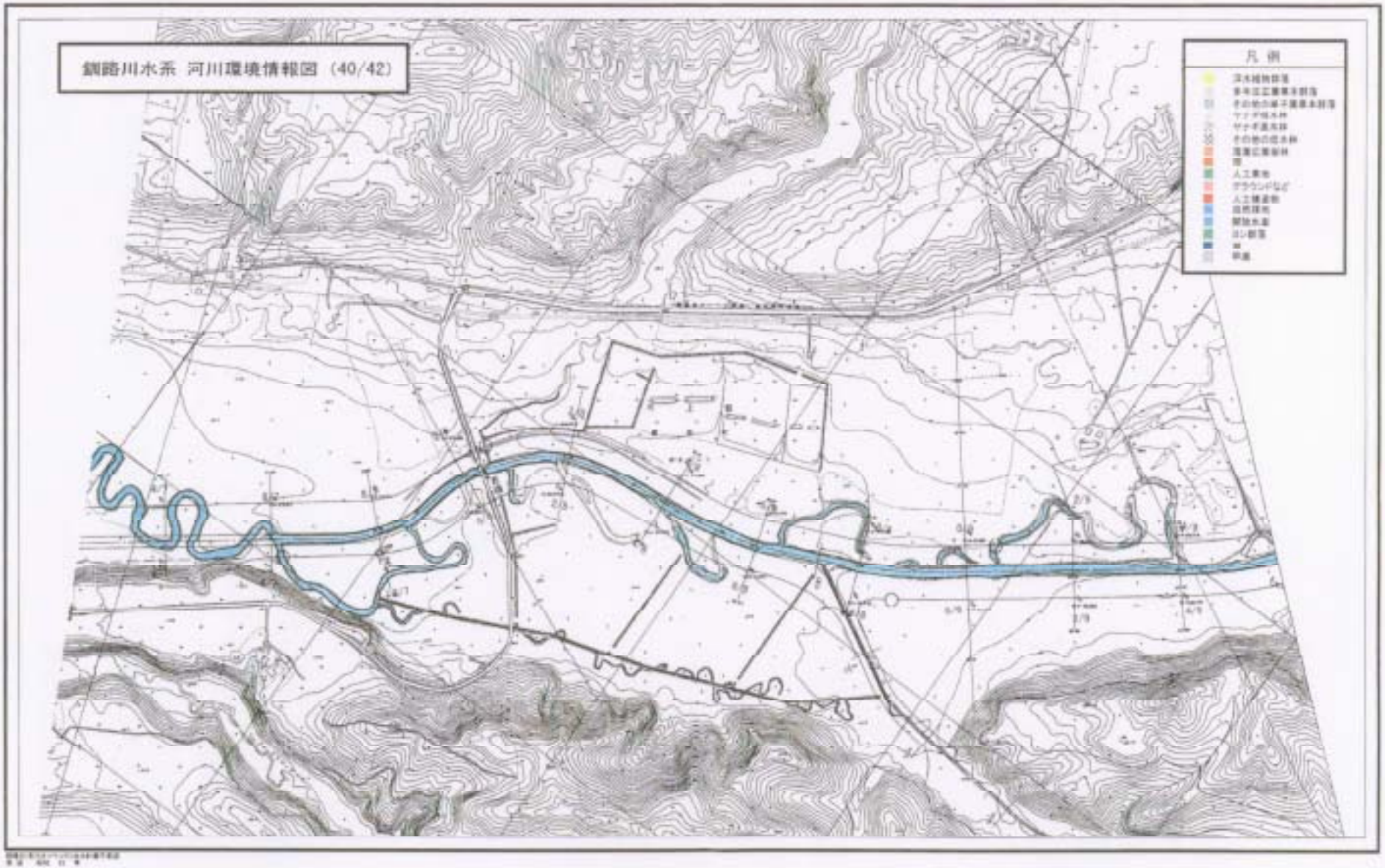

釧路川水系 河川環境情報図 (35/42)
凡 例

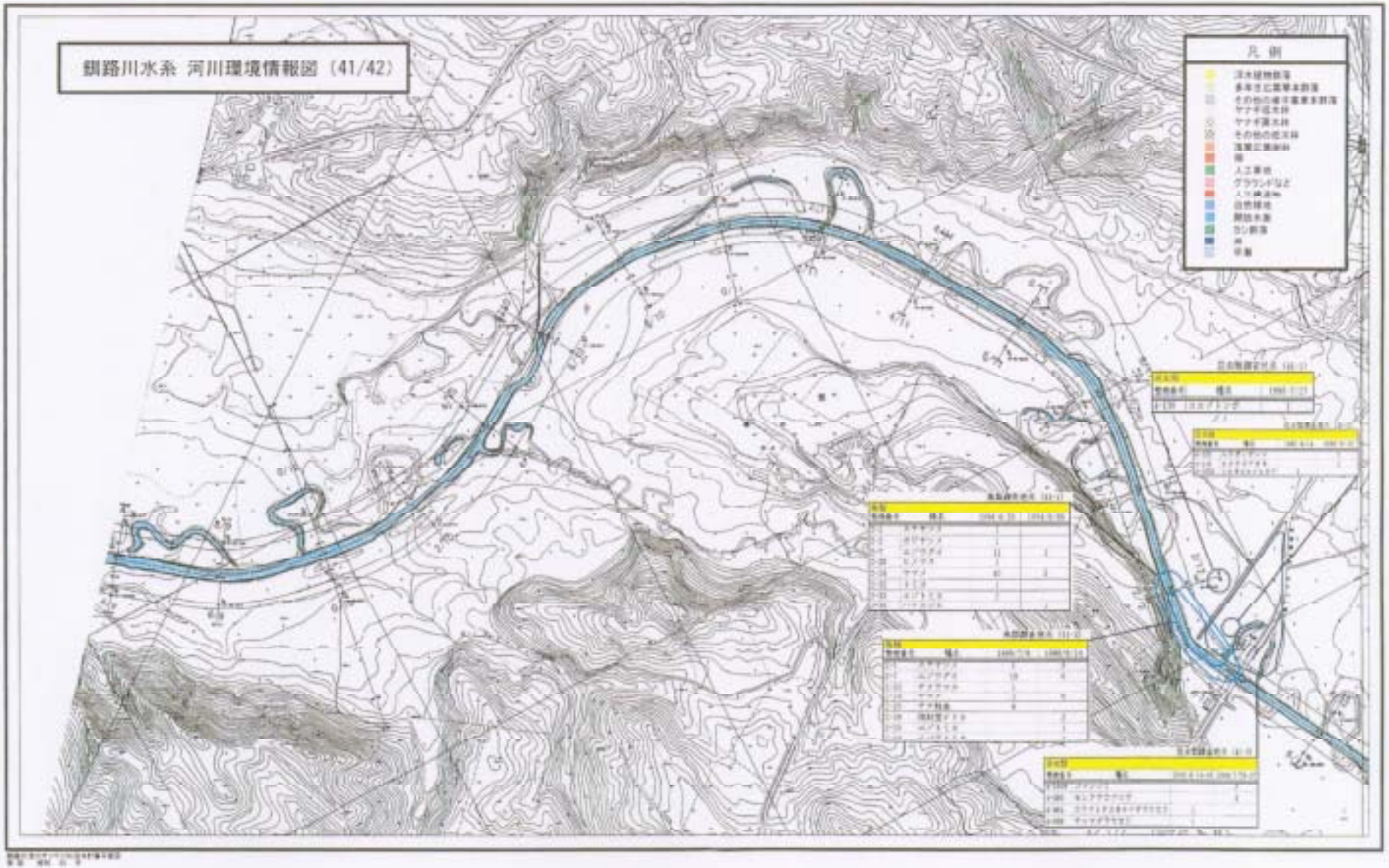

釧路川水系 河川環境情報図 (36/42)
凡例

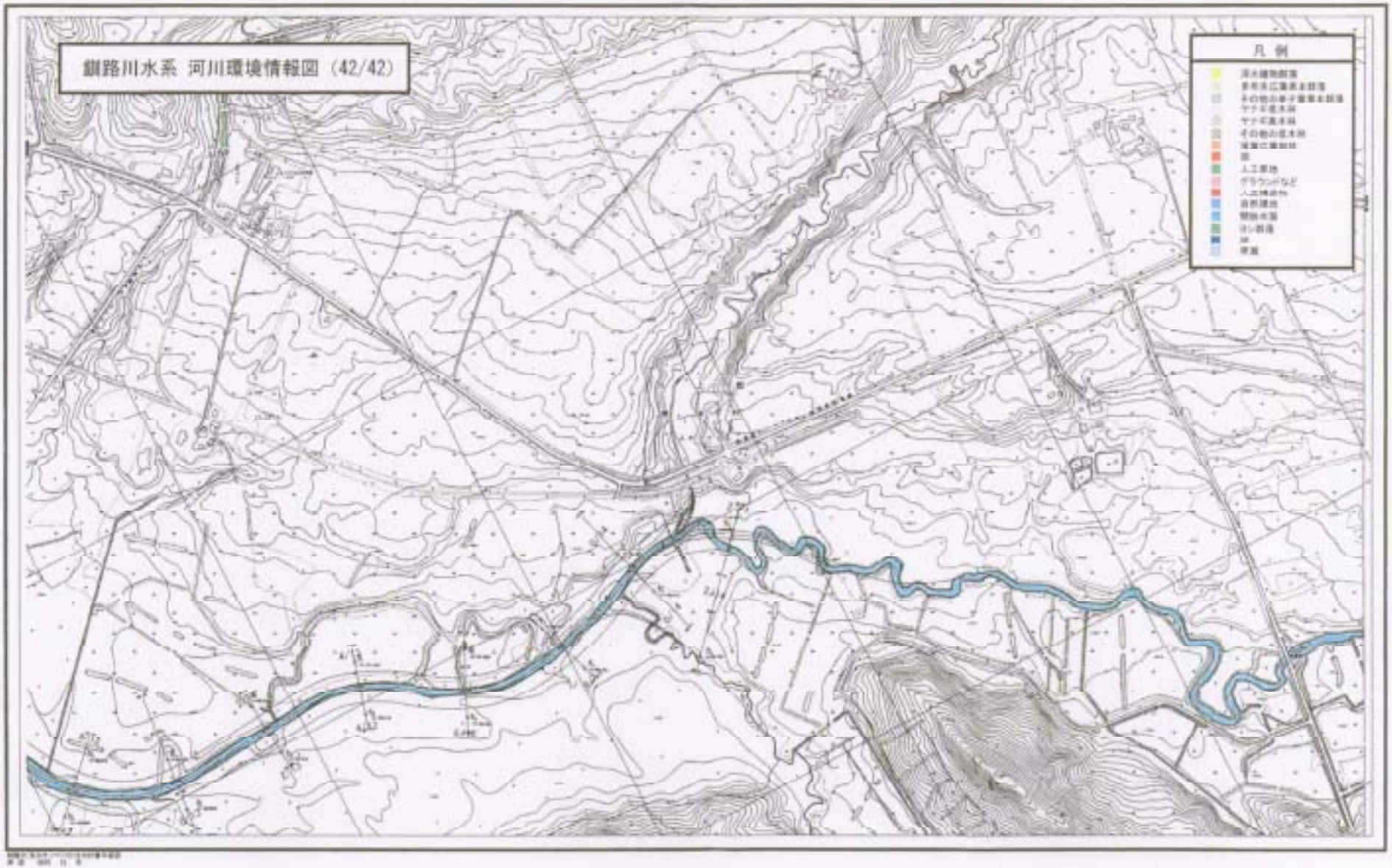

釧路川水系 河川環境情報図 (37/42)
凡例


釧路川水系 河川環境情報図（38/42）
凡例


釧路川水系 河川環境情報図 (39/42)
凡例


釧路川水系 河川環境情報図 (40/42)
凡例


釧路川水系 河川環境情報図（41/42）
凡例


釧路川水系 河川環境情報図（42/42）
凡例